

\*0052459000\*

0052459-000

FD37-70

学生思想運動図解

文部省学生部

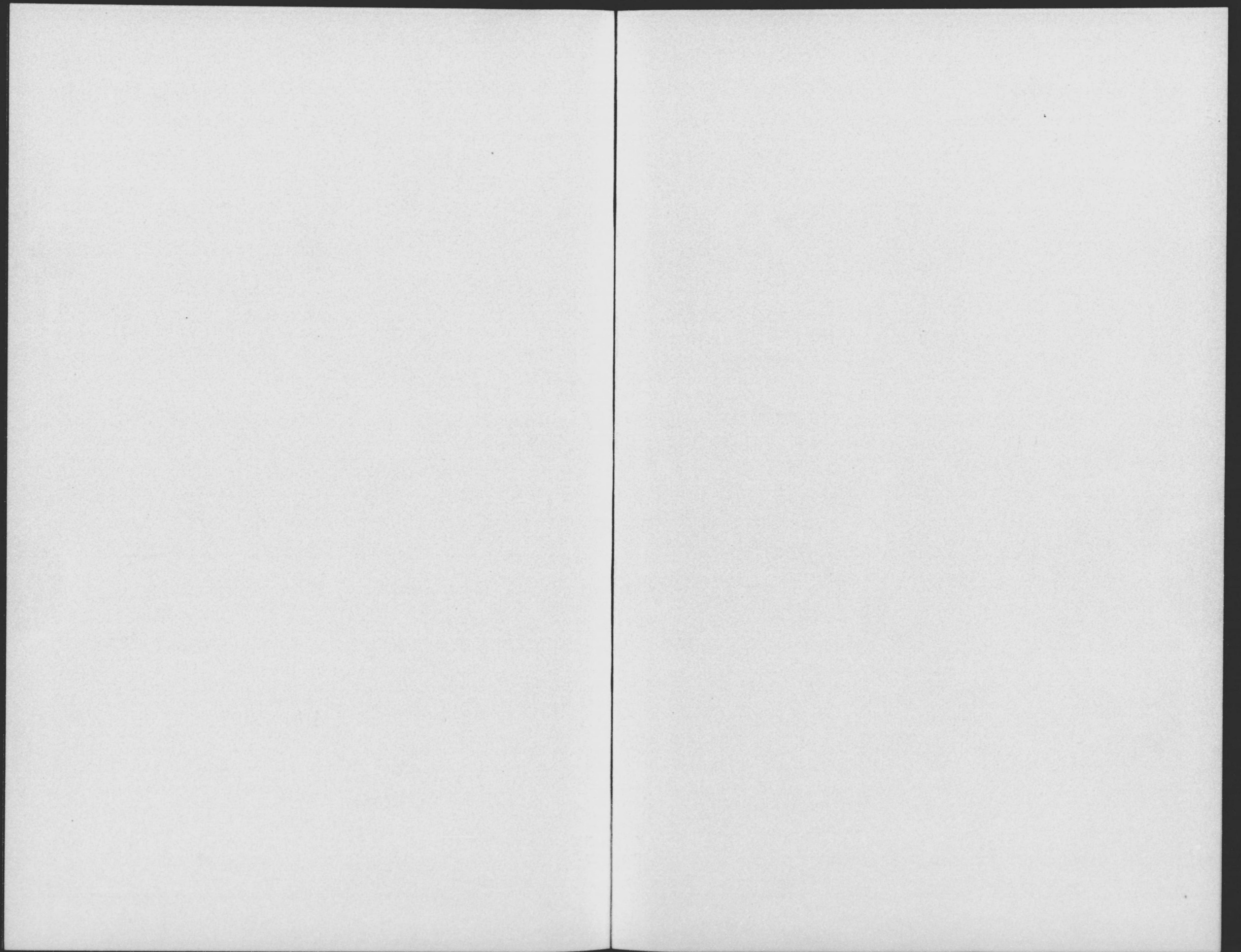
1932

AHN











A 168 昭和七年九月

松田源治文庫

學生思想運動圖解

秘

文部省 學生部

思想調査資料特輯

序

學生生徒及教員の極左運動に関する圖表並に解説

一般極左運動に関する圖表並に解説

左傾運動並に思想關係各種宣傳印刷物の寫眞

學生生徒の左傾道程に用ひらるる主要文獻一覽

左傾運動並に思想關係主要用語略解表

昭11  
A  
168

三九一七



本資料は學生生徒の思想上の指導監督に關し參考  
となるべき各種の資料を選んで之を採録し學生主  
事生徒主事其他學生生徒の指導訓育に當る者の  
閱覽に供するを目的として編輯したるものなり



松田源治文庫

學生思想運動圖解

824152



FD37  
70



824125

### 凡 例

一、本輯は學生思想運動の現勢及び沿革の概要並に學生思想運動に關係ある各種資料の一斑を集録したものである。茲にいふ學生思想運動の中には教員及び青少年團の思想運動を含む。

一、本輯は昭和七年度の「思想問題に關する資料展觀」に使用したる資料を中心として編纂したるものである。

昭和七年九月



# 學生思想運動圖解

## 目次

序	.....
第一 學生生徒及教員の極左運動に關する圖表並に解説	.....
(一) 大學・高等・専門學校關係	.....
(イ) 學生生徒の左傾團體の組織圖	.....
1 學生生徒左傾運動の組織圖沿革(大一四—現在)	.....
2 全日本女子學生社會科學聯合會の組織圖(昭三、四)	.....
3 學聯時代に於ける東京地方學生左傾團體の組織圖(昭四、一〇)	.....
4 東大自治學生會の組織圖(昭七、二)	.....
5 浦和高校學内左翼組織連絡圖(昭七、二)	.....
(ロ) 盟休事件に關するもの	.....
6 東京外國語學校に於ける盟休組織圖(昭七、六)	.....
(ハ) 學生生徒の左傾道程に關するもの	.....
7 學生生徒左傾の徑路圖	.....
8 左傾學生生徒の學内に於ける策動の情況圖	.....



9 學生生徒左傾の原因に関する統計表(昭六、一〇)……………三

10 左傾學生生徒の身上に関する調査表(昭六、七)……………二四

(二) 中等學校關係……………六

11 中等學校思想事件一覽表(昭七、五)……………六

12 鳥取一中に左傾團體の發生せし徑路圖(昭五、一一)……………三〇

13 豊島師範に於ける盟休事件の系統圖(昭五、一二)……………三三

14 校友會雜誌等に現はれたる中等學校生徒の思想傾向表(昭四、六一五、五)……………三三

15 佐賀高女に於ける「佐高女自治會」結成に至る徑路圖(昭七、三)……………三五

(三) 小學校教員關係……………三六

16 小學校教員の極左組織の變遷圖(昭二、一一現在)……………三七

17 全協加盟の日本一般使用人組合教育労働部東京支部組織圖(昭六、八)……………三九

18 新興教育研究所宮崎支局組織圖(昭六、九)……………四一

19 小學校教員の左傾徑路圖……………四三

20 小學校教員思想事件一覽表(昭七、六)……………四四

(四) 無産青少年團關係……………四七

21 ビオニール一覽表(昭七、六)……………四七

### 第二 一般極左運動に関する圖表並に解説

(一) 一覽表……………六

1 主要極左諸團體一覽表(昭七、八)……………六

2 主要極左記念日一覽表(昭七、六)……………六

(二) 極左團體關係……………六

3 日本共産黨の組織圖(昭七、六)……………六

4 日本共産青年同盟の組織圖(昭七、六)……………六

5 東京府下に於ける黨・同盟と學校細胞との關係圖(昭六、一一)……………七

6 プロレタリア文化聯盟(コップ)組織圖(昭七、九)……………七

22 青森縣青年訓練所のストライキに至る徑路圖(昭六、一)……………五〇

23 神奈川縣馬入ビオニールの結成並に活動狀況圖(昭六、一〇)……………五一

(五) 統計……………五一

24 最近自昭和三年至昭和六年思想事件學校種別統計(昭七、四)……………五一

25 // 被檢束學生生徒數統計(昭七、四)……………五一

26 // 處分學生生徒數統計(昭七、四)……………五一

27 治安維持法違反事件關係被告學生生徒數統計(昭七、四)……………五一



7	コップ地方協議會組織狀況圖(昭七、六).....	五
8	新興教育同盟組織圖(草案).....	七
	第三 左傾運動並に思想關係各種宣傳印刷物の寫眞.....	九
	第四 學生生徒の左傾道程に用ひらるゝ主要文献一覽.....	九
	第五 左傾運動並に思想關係主要用語畧解表.....	八五

## 序

### — 學生思想運動の一般的情勢 —

現在に於ける學生思想問題は過去に於ける學校騒動とはその趣を異にし、その大多數はマルクス・レーニン主義を奉ずる日本共産黨其の他の極左團體の影響の下に發生したものであつて、左傾的影響の明白でない各種の學校事件に於いてもその行動・戰術等は左傾的團體の行動・戰術等に倣つて極めて組織的である。

抑々左傾的思想運動が組織的に學生間に侵入して來たのは略々關東大震災以後の事であつて、かの大正七年に創立された新人會の如きでも、その組織の當初は、急進的自由主義を奉じて居た様である。明白にマルクス主義的色彩を帯びた學生思想事件としては大正十五年の京大事件を以て嚆矢とすべく、當時は所謂學聯(全日本學生社會科學聯合會の略稱)が學生思想運動の中心として活動し、科學的研究を名として密に日本共産黨等の極左團體の方針を體して過激な實行運動をなして居た。其の後、昭和四年十一月に至つて單に學生のみの左傾運動なるもの存在を認めないといふ極左派の方針變更により、學聯は自發的に解體し、學生の運動も他の一般極左運動の中に解消すべきものとして日本共産黨及び日本共産青年同盟の直接指導下に再組織せられ、學内運動の指導體としては非合法學生グループ(所謂學生グループ)なるものが置かれた。之は始め學聯會員中の優秀分子によつて既に昭和四年三月末各學校内に置かれたもので、共産青年同盟と學聯並びに一般學生との中間にあつて黨及び同盟の影響力を傳達すると共に、他面學生の無産者運動への支持參加を助成する任務を持つものであつたが、この學生グループは昭和五年一月に至つて共青同



盟員候補者たるエーヂェント・グループに変更せられた。然るに昭和六年五月所謂新「學生テーゼ」の發表によつて更に方針の変更を來し、右のエーヂェント・グループはその構成員を學生たる共產青年同盟員を以てし之が學校細胞として中心となつて各種の外廓團體を通じて運動してゐる。殊に前記學生テーゼに依れば一般學生を大衆的に動員し其の日常學校生活に於ける不平不満を巧みに取上げて問題化しては宣傳煽動せんとする目的を以て、自治學生會を組織し、或は學生新聞を發行し、學生消費組合、赤色スポーツ團を作る等一般學生の所謂大衆的動員に力を注いでゐる現狀である。

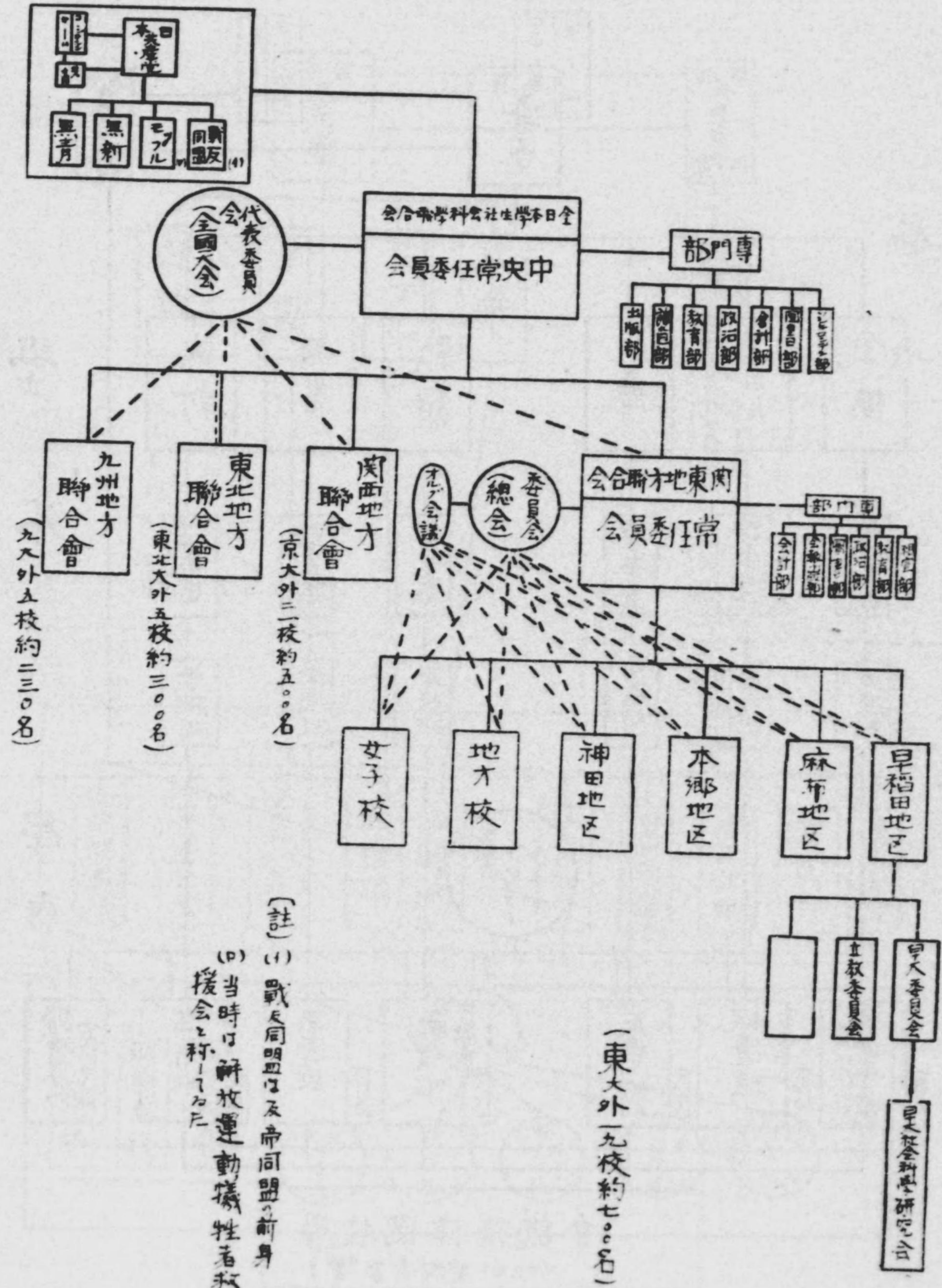
而して學生思想問題は當初は専ら大學・高等・専門學校以上の而も少數の學生生徒間に於いて發生したものであるが、學聯解體後には著しくその組織範圍を擴大し、最近では獨り上記學校のみならず、中等學校・小學校教員・青少年團等に於いてもこの種の思想問題の發生を見るやうになつた。

## 第一 學生生徒及教員の極左運動に関する圖表並に解説



# 革沿圖織組の動運傾左徒生學 1

(月七年四十正大自) 圖織組の聯學、一第  
 (月十年四和昭至)

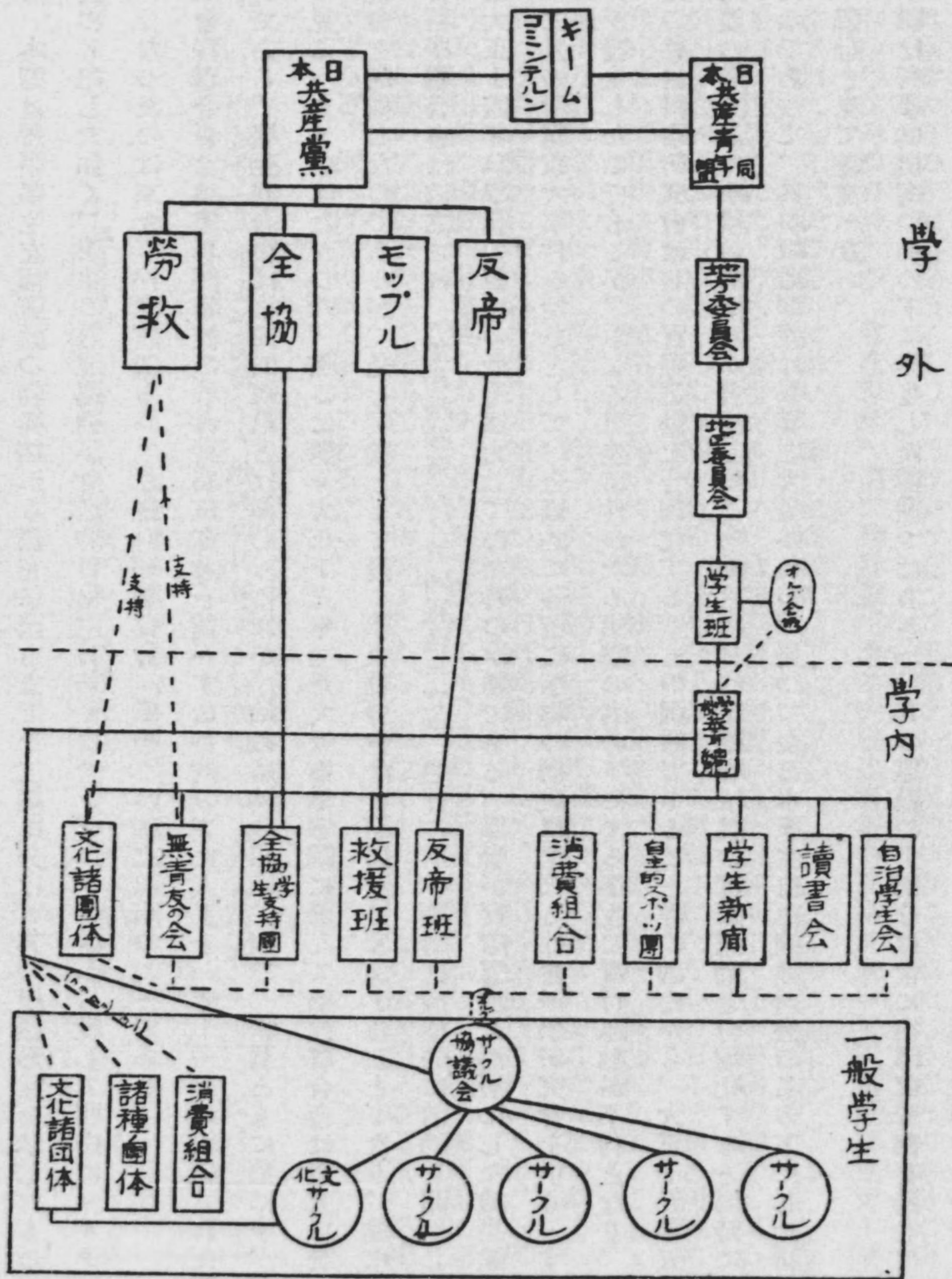


(註) (1) 戦前同盟は及帝同盟の前身  
 (2) 当時「解放運動犠牲者救済会」と称した

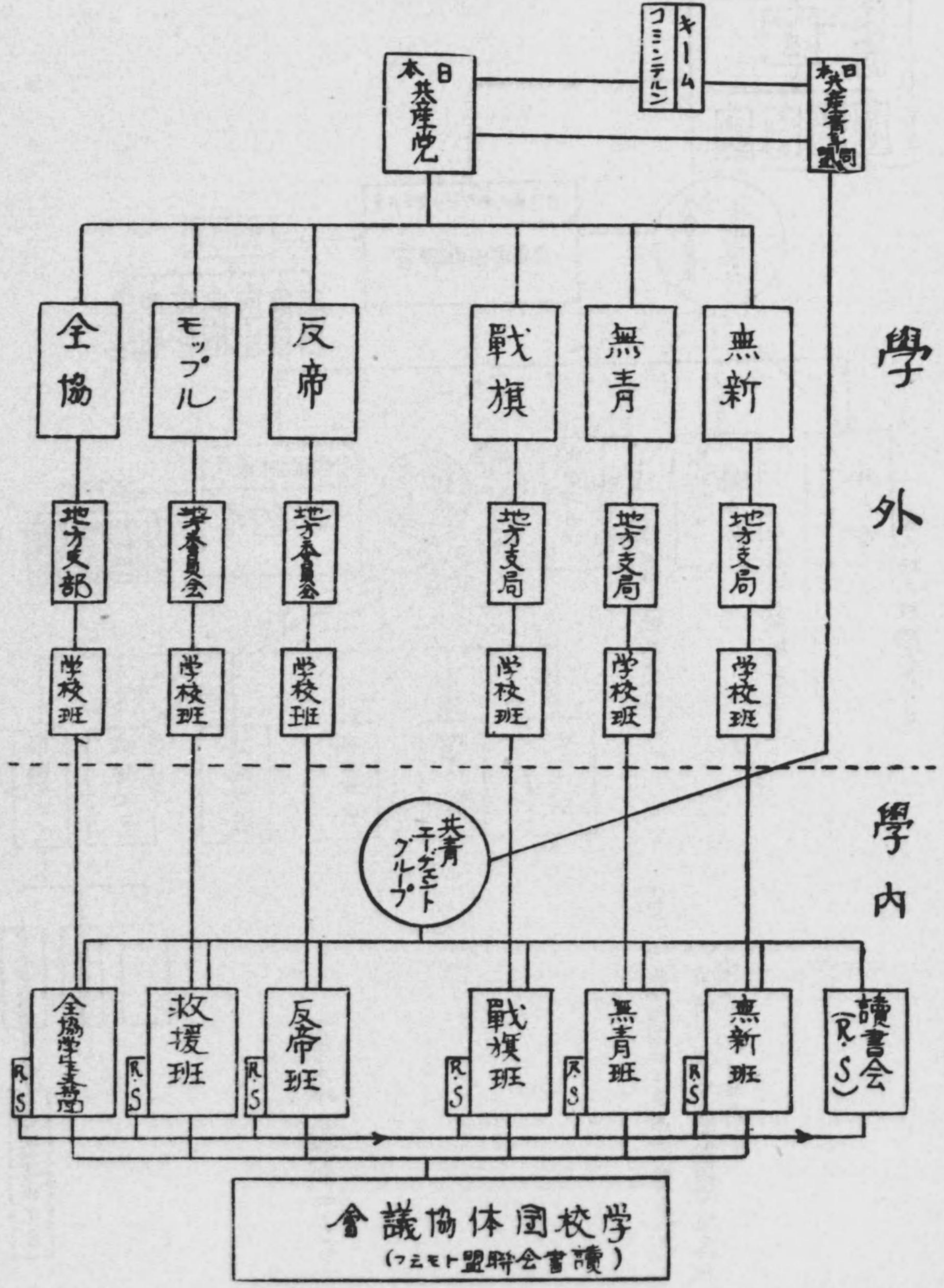
(東大外一校約七〇名)



（後以月六年六和昭）圖型定の後表發針方新年六和昭、三第



（月十年四和昭自 月五年六和昭至）圖型定の後體解聯學、二第





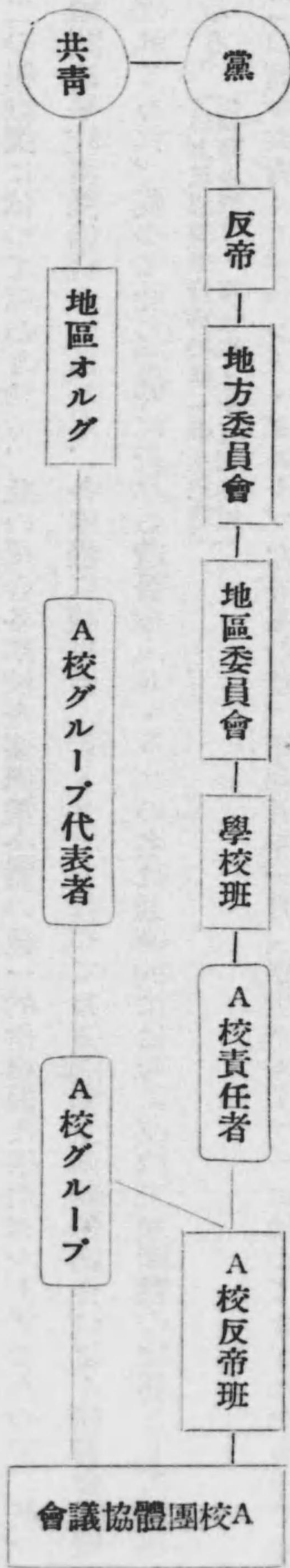
(解説) 本圖は所謂學生左傾運動の勃興期から現在に至るまでを三期に分けて其の組織形態を示したものである。既に序文にも記した如く、學生の思想運動が急進的自由主義若くはサンチカリズムから脱して明白にマルクス主義に依ることとなつたのは京大事件直前即ち學生社會科學聯合會(學聯)の確立以來のことである。

學生社會科學聯合會は高等専門學校の社會科學研究會を統一する目的の下に大正十一年十一月に組織された學生聯合會の後身である。學生聯合會は全國的組織とは稱してゐたが、始めは其の組織、機能、統制ともに整はず、勿論活動としても見るべきものはなかつた。然るに偶々大正十三年七月大阪市電争議に際して學生聯合會は東京に於いて其の批判演説會を開催したのであるが、是を契機として漸く學生聯合會は實際運動に参加することとなり、遂に同年九月學生社會科學聯合會は確立され、「無産階級運動ノ共同戦線ニ立ツ」趣旨の下に學聯は積極的に活動を開始した。本圖の第一は大正十四年秋學聯の組織の最も擴大してゐた時の状態である。學聯が實際運動を活躍にした結果遂に翌大正十四年十二月の所謂京大事件を始めとして、全國的に各校に學聯の構成單位たる社會科學研究會を中心とする幾多の思想事件が発生したのであるが、かゝる思想事件のため學聯の名の下にする學生の實行運動が不利となり、且元來が書齋的なる社會科學研究會は其の實際運動を合理化することの困難であること等の理由から、大正十五年五月學生自由擁護同盟の名で以て學聯の別働隊が発生した。勿論之に依つて學聯は其の實際運動を合理化すると同時に大衆化せんとしたのであつて、其の組織形態は學聯と大差がない。従つて全日本學生自由擁護同盟の名の下にした諸種の運動は學聯の運動と見て差支へない。

抑々學聯は科學的研究の名の下に発生した團體ではあるが、其の運動の大部分は常に指導部幹部を通じて日本共産黨、日本 産青年同盟の方針に基いてゐた。従つて當時の學生左傾運動は取も直さず學聯の運動であつたと言つてい

ゝ。然るに日本共産青年同盟は三・一五事件以後學生層を一般極左運動の有力なる活動體たらしめんとする意圖を抱き、其の爲には學生のみの左傾運動なるものを認めず、従つて學聯を一般運動の中に解消せしめんとの方針に出た。此の趣旨は昭和四年四月四日發行の「無産青年」第二號所載「革命的學生青年の任務に就いて」(所謂學生テーゼ)なる論文に明かにされてゐる。此の方針に基いて第一に各校に「學生非法グループ」(簡単に「學生グループ」とも呼ばれる)なるものが設置された。即ち「學生グループ」は共産青年同盟の直接指導下に、従來學聯の擔當してゐた學生の政治的經濟的意識的運動の指導體として學聯會員中の優秀分子によつて組織されたものである。是と同時に學聯の解體方針が決定されて學聯は暫時左傾運動に於いて一般と學生との間に於ける協議連絡の機關に止まることとなつた。而して同年十月には學聯は完全に解體し、學生の左傾運動は一般極左運動の中に含まれることとなつた。

第二の圖は學聯解體後に取られた學生左傾團體の定型的組織圖であるが、學聯解體直後に於いては、「學生グループ」が學内左傾運動の總體的指導體であり、各左傾團體は各其の班の學校責任者を通じて直接外廓團體に連絡してゐた。此の場合に於いては各校の各左傾團體は共青指導下にある「學生グループ」と外廓團體との二重の影響下にあることとなつてゐる。例へば次の如く圖示される。





第二の組織圖に依つて明かなく、此の場合各學校左傾團體全體の統一的指導體は學生グループであつて、統一的協議機關は學校團體協議會であるが、各團體に讀書會(R・S)を持つてゐる關係上團體協議會は屢々讀書會聯盟とも呼ばれてゐた。従つて此の當時に於ける讀書會(R・S)の名は通稱的には時に學校左傾團體の總稱として用ひられてゐる。(以上思想調査資料特輯「學生思想」(運動の沿革」第三編・第五編参照)

第二の圖中共青エーヂェント・グループなるものは、昭和五年一月「學生グループ」に代つておかれたものであつて、是は從來のグループ構成員は同盟員もあり、然らざるものもあり、又街頭、工場に進出するものもあり、學内に止まるものもあるといふ状態であつたのを、グループのメンバーたる學生は原則として共青同盟員候補者たるべしとの同盟の方針に基いておかれたものである。又全協支持團は始め勞新支持團と稱してゐたものである。

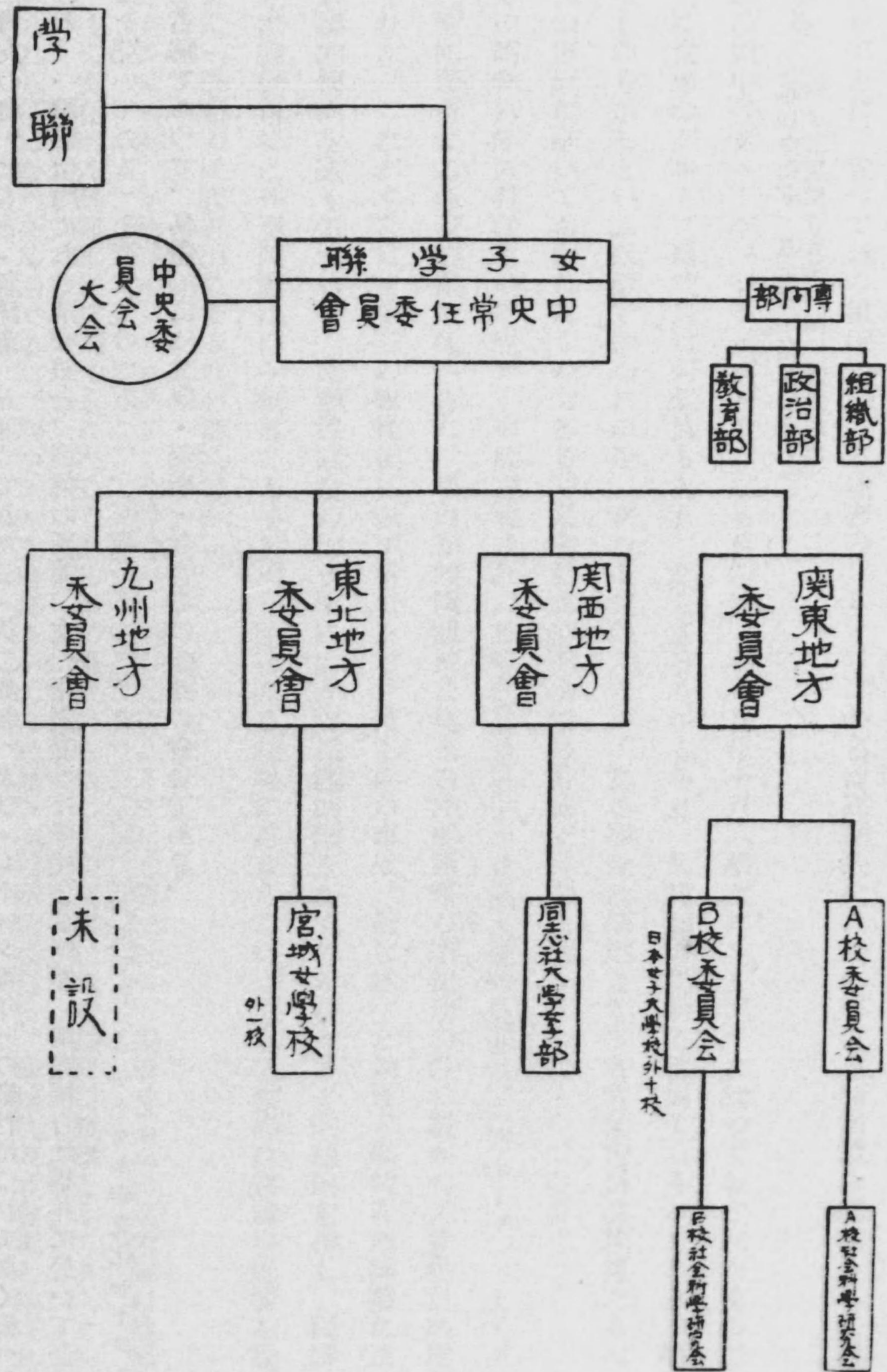
然るに昭和六年六月從來の學生テーゼは變更され、(思想調査資料第十二輯「學生運動」欄参照)共青エーヂェント・グループは共青同盟員たる學校細胞に代へられ、學内左傾團體には從來の外廓團體の學校班の外に數多の大衆動員の團體が加へられた。これがすなはす第三の組織圖に示す所である。蓋し此の事は、既に述べた如き、學校左傾團體に及ぼす二重影響的傾向を避くるためと、團體協議會の如き學内のみの協議機關をおくためのセクト的傾向を排し、同時に學生の大衆的動員には外廓團體にのみ依ることの不利を認めたる結果に外ならない。而して結局は共青の影響を從來よりも更に一層強力に直接的にするのが目的である。

サークルは昭和六年秋日本プロレタリア文化聯盟の結成當時より文化團體に依つて提唱せられた大衆動員組織であつて、主に文化的左翼運動に採用せられたのであるが、漸次あらゆる左翼運動に低意識層員組織としてサークルの形態が採られる様になつたものである。圖中オルグ會議といふのは屢々學校對策委員會、學校代表者會議と呼ばれる。

又「無青友の會」はもと「新聞班」と言つてゐたが「第二無新」及び「レニニ青年」の廢刊につれて斯く變へたものである。一般學生内にある消費組合、諸種の團體、文化諸團體等は學校公認團體(消費組合は學外に於いて合法的に店舗を開いてゐる)を指すものであつて、左傾分子のフラクション活動の對象である。サークル中文化サークルは一般的名稱であつて、具體的には文學・美術・教育等の諸種の會合である。



2 全日本女子學生社會科學聯合會の組織圖 (昭和三年四月)



(解説) 學聯結成當時女子學生生徒間に於いても社會科學研究會を中心とする學生左翼運動は漸次擴大して、昭和三年三月には學聯と並んで、東京、日本兩女子大學生を中心とする全日本女子學生社會科學聯合會(女子學聯)が組織されるに至つた。本圖は四・一六事件の際檢舉された一幹部の所持してゐた秘密文書によつて判明したものである。學聯は先に示した如く後に解體したが、女子學聯もそれに伴つて解體して共に一般左翼運動の中に入り込み、現在に於いては學生運動の中にあつて特に女子學生運動と目すべきものはない。







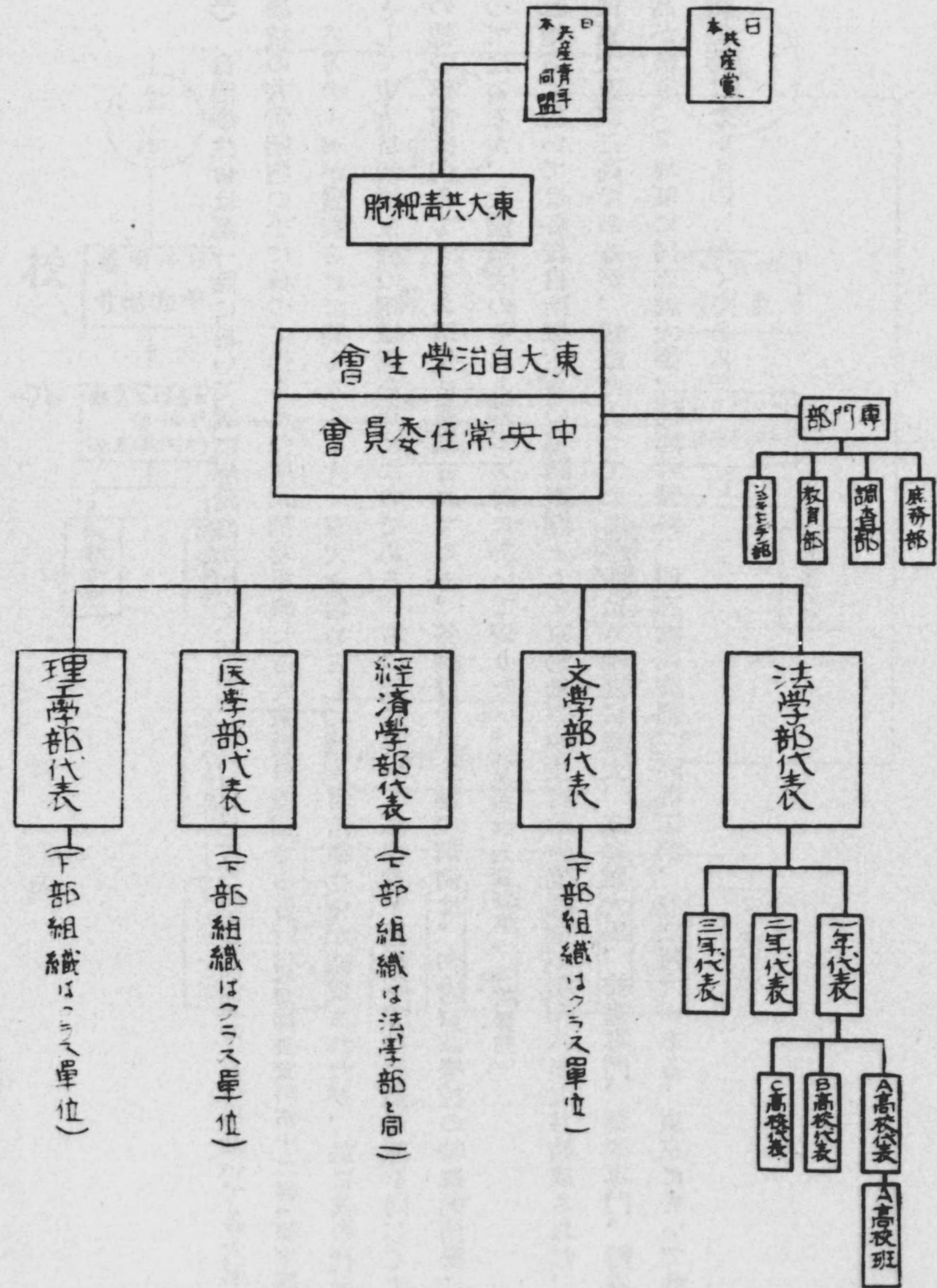




(解説) 本圖は第一圖第一に示した學聯時代に於いて東京地方學生左傾團體の組織關係を圖示したものであるが、是に依つても共產主義系團體と學聯の密接なる關係が知られる。併しながら黨及び同盟の側より見ればかゝる複雑なる組織關係は學生運動の實踐的效果を薄弱なるものとして第一圖に示した如き組織の變更を見たのであらう。

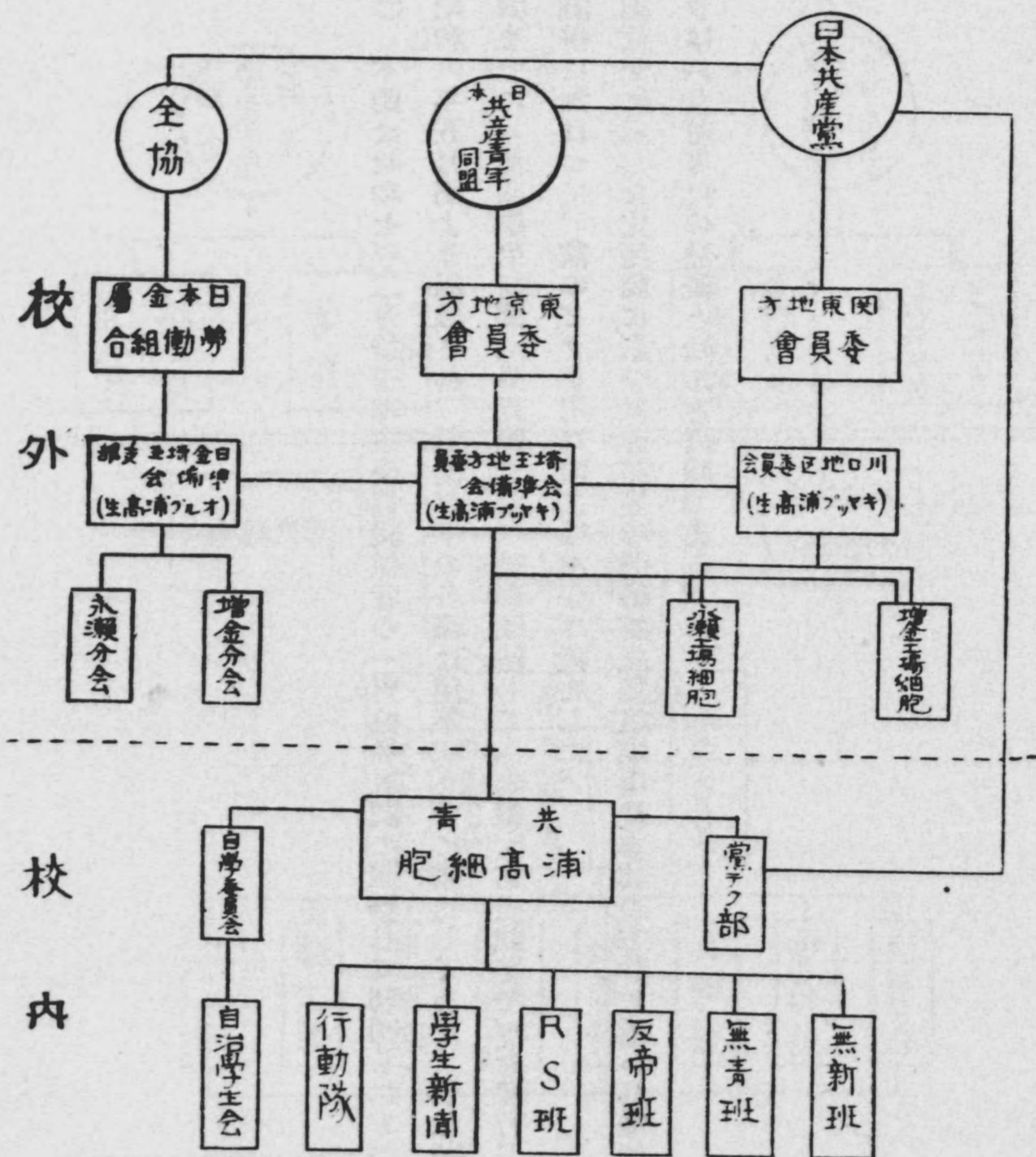


(在現月一年七和昭) 圖織組の會生學治自大東 4





5 浦和高中等學校內左翼組織連絡圖 (昭和七年二月)



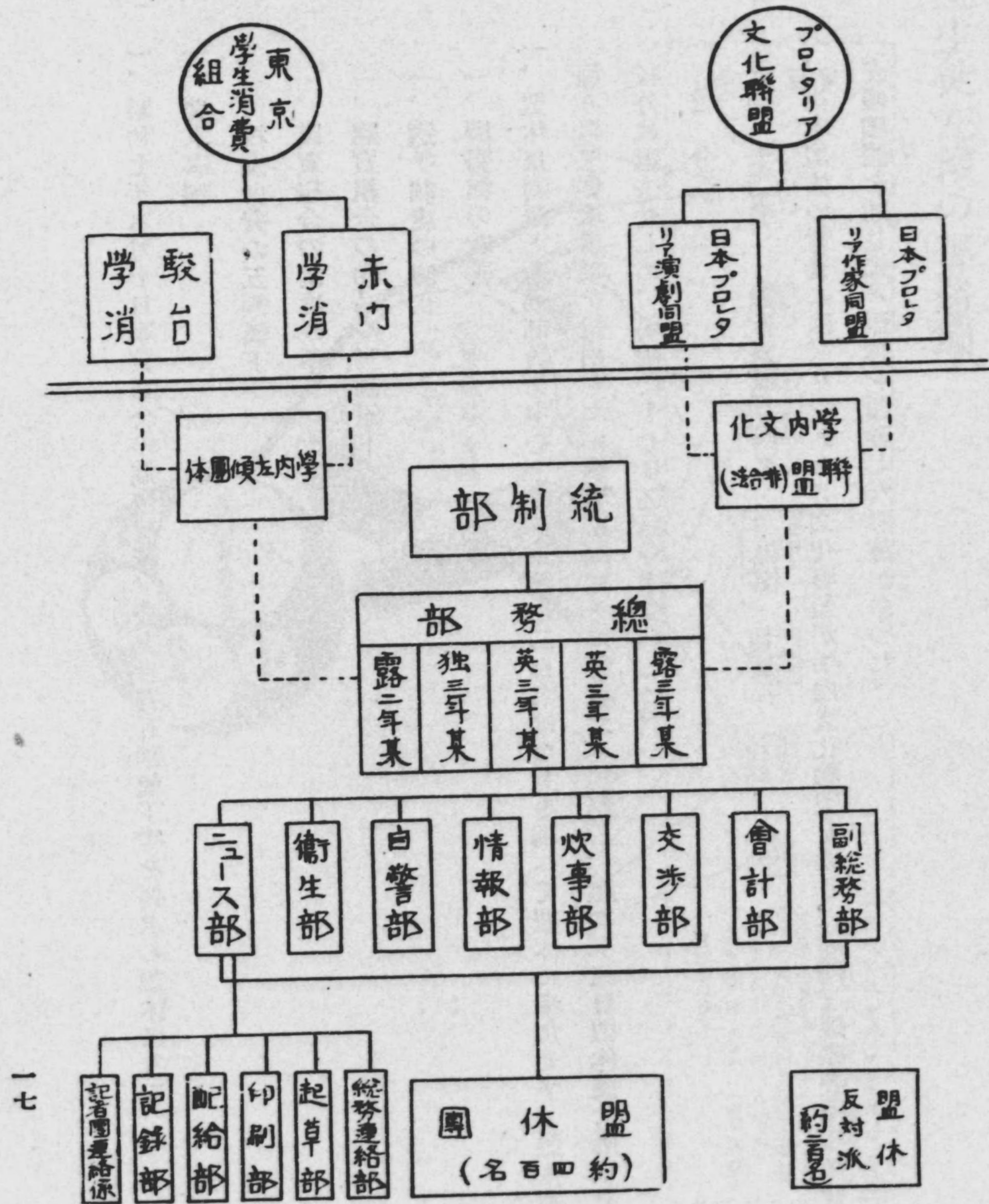
(解説) 自治學生會は第一圖に於いて既に解説した如く、昭和六年六月日本共産青年同盟の方針に基いて各大學・高等專門學校の共青細胞の手に依つて作られた所謂補助組織たる大衆動員機關である。(思想調査資料第十二輯「學生運動」欄参照) 六月テーゼが發表されて間もなく東大・京大を始めとして續々自治學生會が結成されたが、茲に其の代表的のものとして東大自治學生會の組織圖を掲げたのである。右の圖に於いて法學部・經濟學部は組織形態を同じくするが、其の他の學部は何れもクラス單位に組織されてゐる。各校自治學生會の綱領は、勿論當該學校の特殊的情勢に應じて異つてはゐるが、大體東大のそれと基本方針に於いて變りない。(思想調査資料第十二輯参照)

尙京都地方に於いては各校自治學生會の協議機關として京都地方學生自治會協議會が昭和六年九月結成された、其の主體は京大及び三高であるが、組織に入つてゐる學校はA地區に京大、立命館大學、繪畫專門、藥學專門、龍谷大學、三高があり、B地區に同志社大學、同志社豫科、同志社高商部、高等工藝、府立醫大がある。東京に於いてはかかる協議機關はないものゝ如くである。



# 東京外語學校に於ける盟休組織圖 6

(昭和七年六月)



一七

(解説) 本圖は昭和七年二月埼玉地方全協關係者の一齊檢舉取調に關聯して判明したものである。圖中の共青浦高細胞は昭和六年五月頃より組織され、無新以下の各班は同年末までに確立してゐた。學生新聞は同年五月以降昭和七年二月頃までに「浦高學生新聞」(第五號まで)後に改題して「赤鐘」(第三號まで)を發行し、行動隊は昭和七年二月の選挙闘争に加はつて、黨のピラを川口町工場地帯に撤布した。尚本圖は先に示した定型圖に則つた各高等専門學校左翼組織中最も其の方針に近い具體圖であつて、學生新聞の發行の如きは六月新方針の發表と殆んど同時である。

一六



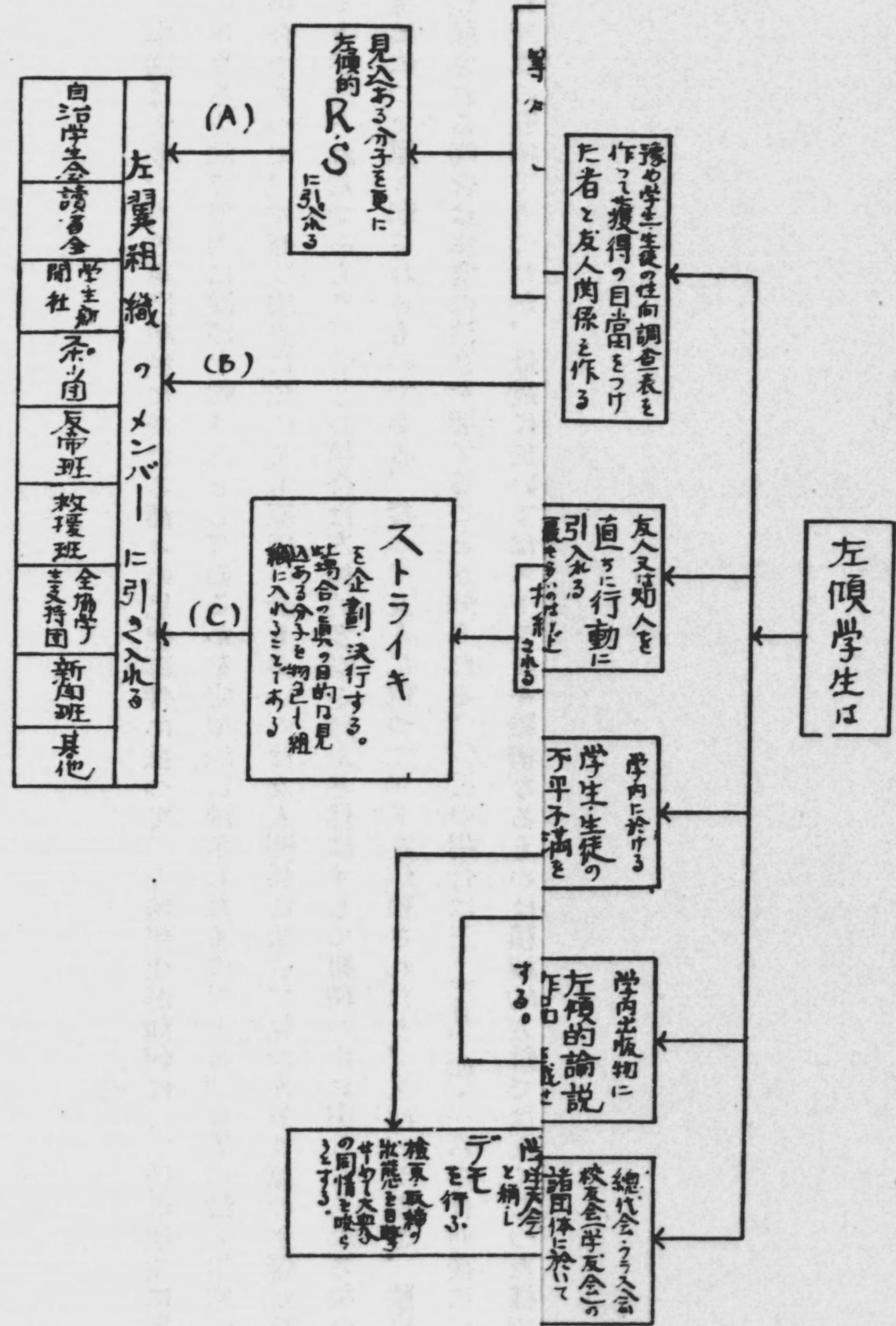






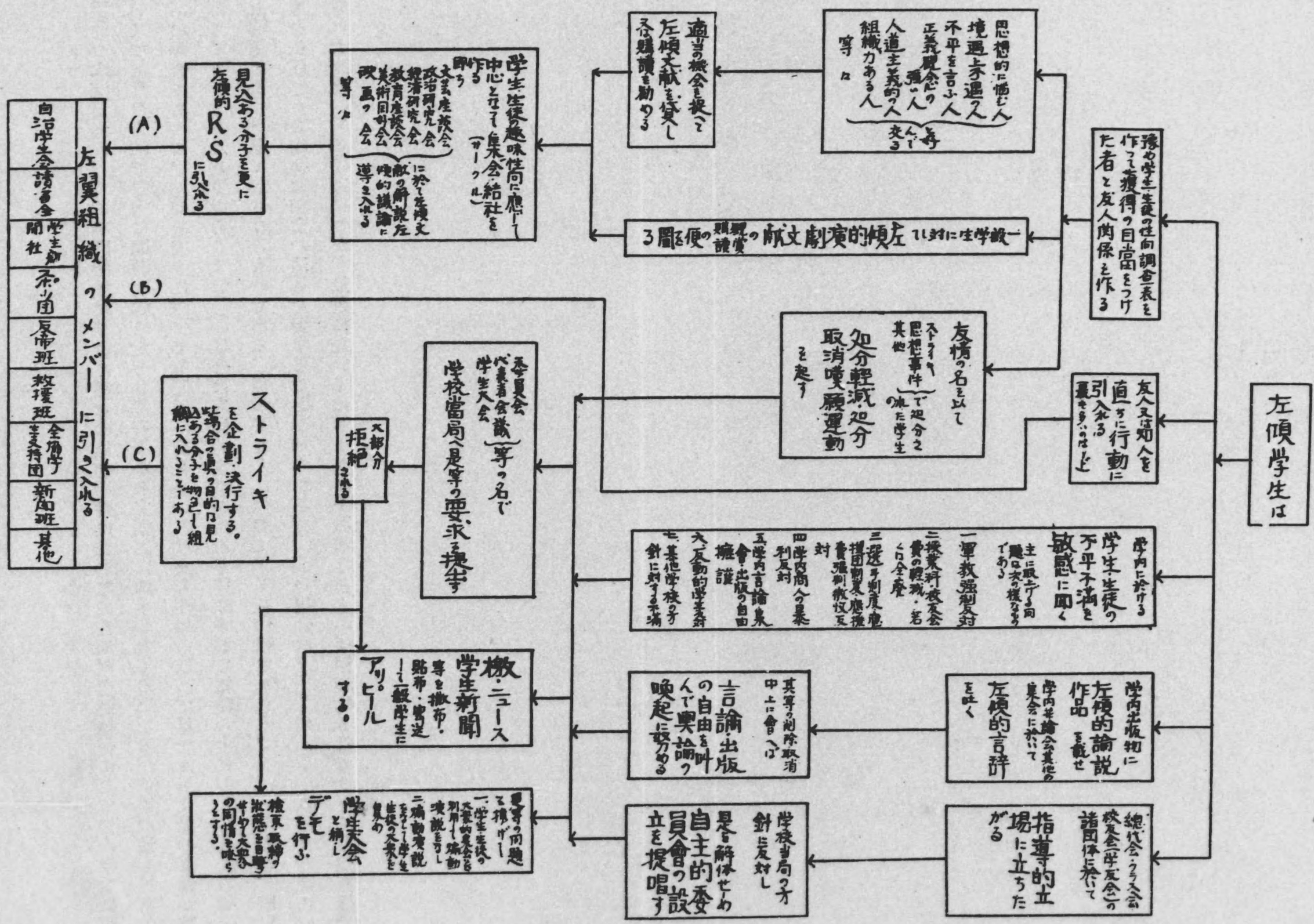


8 左傾學生の學内に於ける策動の情況圖





8 左傾學生の學内に於ける策動の情況圖

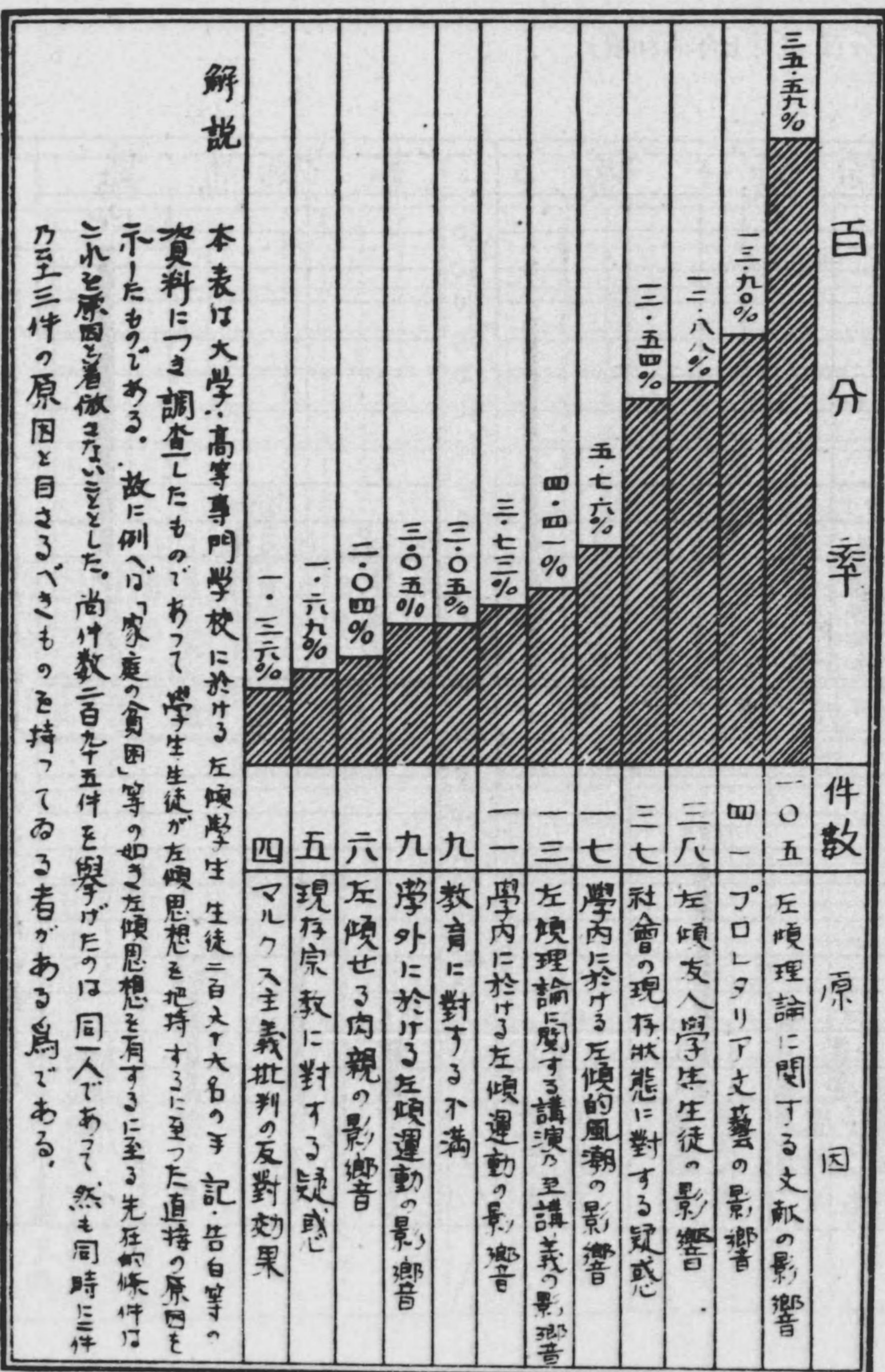




(解説) 本圖は大學、高等専門學校に於ける種々の思想事件に依つて、左傾學生が如何にして他の學生に影響を及ぼし、又如何なる方法で學内に問題を起さんとしてゐるかを定型的に圖示したものである。彼等の最も恒常的な方法は(A)の場合であつて、左傾原因表に依つても原因の最も多いのは友人關係に依つて見た左翼文献の影響が首位を占めてゐることが知られるであらう。(B)の場合は左傾的意識を殆んど伴はずして組織の中に引入られる場合で、深い友人關係に依つて屢々起されるものである。従つて友人に依つてアドを依頼されたり、又はピラ撒き、謄寫印刷の手傳等を依頼される場合は相當の注意を要することが知られる。(C)の場合は三・一五、四・一六事件前後には積極的に取られた左翼の戦術であつたが、最近に於いてはストライキ戦術なるものは積極的方針ではなくなつた様である。



9 學生生徒左傾の原因に關する統計表 (昭和六年十月)

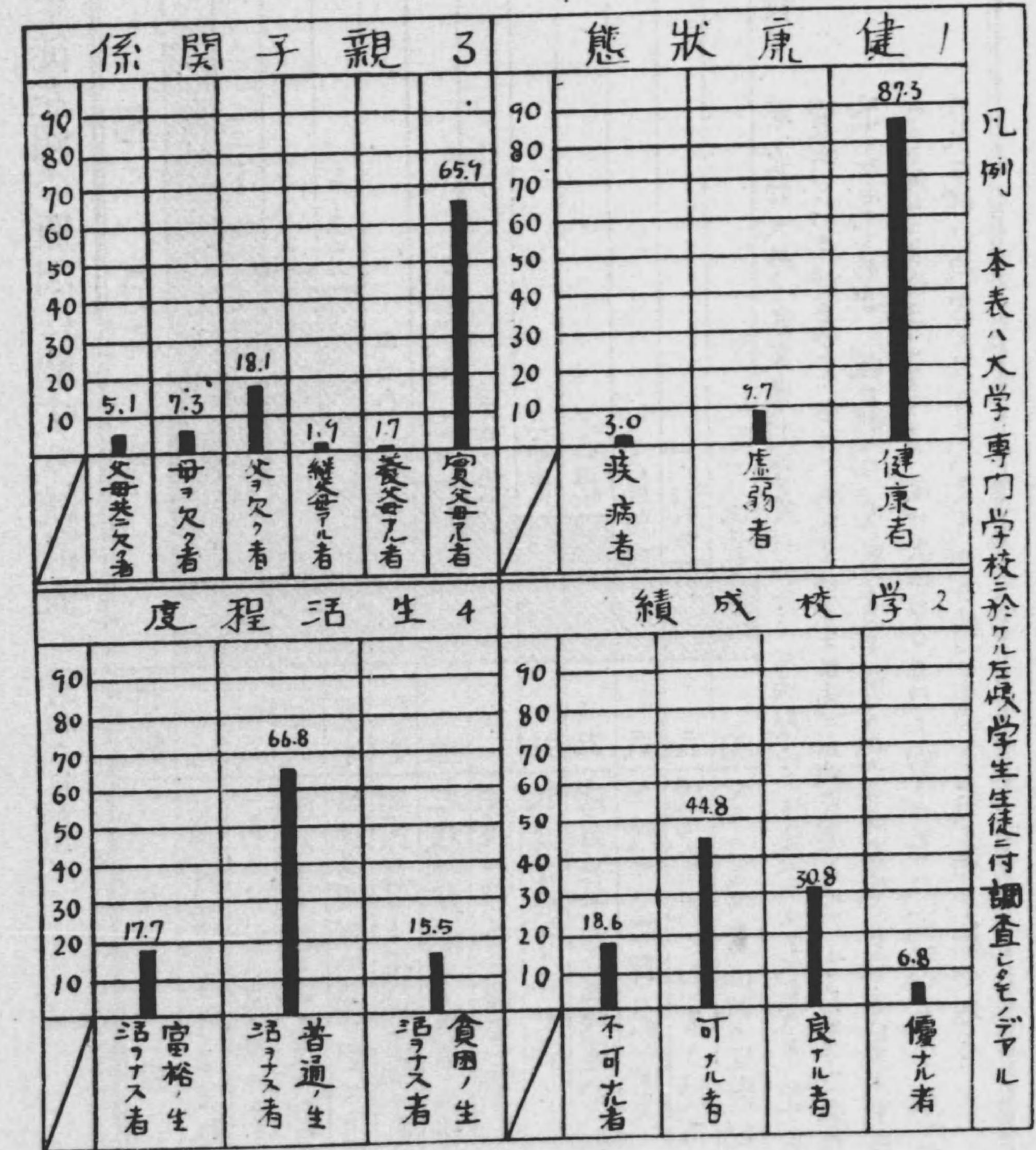
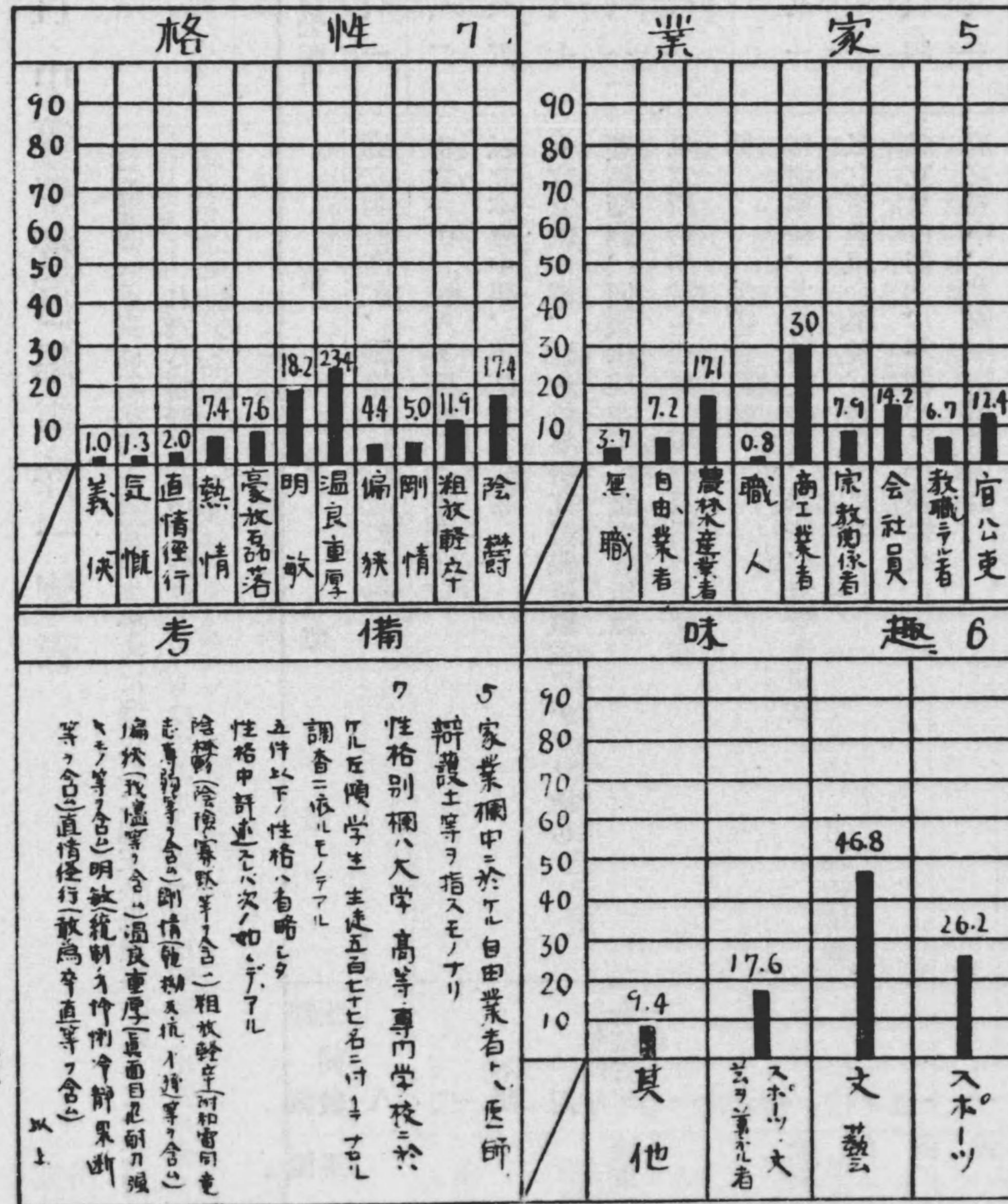


解説 本表は大學・高等専門學校に於ける左傾學生生徒二百九十名の手記・告白等、資料に基づき調査したものであつて、學生生徒が左傾思想を保持するに至つた直接の原因を示したものである。故に例へば「家庭の貧困」等の如き左傾思想を有するに至る先在的條件はこれを原因と看做さないとした。尚件数二百九十五件を擧げたのは同一人であつて、然も同時に三件乃至三件の原因と目さるべきものを持つてゐる者がある爲である。



# 表査調るす關に上身の徒生學傾左 10

率分百 (月七年六和昭)



凡例 本表ハ大学、専門学校ニ於ける児童學生生徒ニ付調査シタモノナル



## 11 中等學校思想事件一覽表

(備考) 本表は昭和四年以來中等學校に發生した極左系思想事件にして、本省に報告せられたる資料に基いて作製したものである。尙本表は昭和七年五月までに判明したものである。

府縣名	發覺年月	事 件 概 略	生徒係數	起訴人、起數
北海道	六、一	廳立函館商業、戰旗支局設置に關與	八	
東京府	五、二	市立一中、校内不穩ビラ作製撤布	二	
同	五、五	私立本郷中學、不穩ビラ配布	不明	
同	五、七	私立立教中學、社會科學研究同盟組織並アヂビラ撤布	四	
同	五、一	豐島師範、同盟休校並TN讀書會組織	三年 四年	檢束三
同	六、一	私立明治學院中學部、軍教反對ビラ配布	一	
同	同	同 讀書會組織	五	
同	五、一	電機學校、共產黨支持團、無新、無青班組織		檢束一
同	六、一	私立産業組合學校、讀書會組織	一八	同 一
同	六、四	私立目白商業、不穩ビラ作製撤布	一	同 一
同	七、三	府立五中、共青細胞組織策動	一	同 一

京都府	六、五	私立兩洋中學、鮮人生徒盟休		
大阪府	七、一	府立茨城中學、左翼圖書回讀	五	
兵庫縣	五、六	縣立第一神戸商業、社會科學研究會、モツブル班、反帝班組織	一〇	檢束一
新潟縣	七、一	縣立佐渡中學、左翼雜誌發行計畫	四	同 二
千葉縣	四、一二	私立成田中學、戰旗讀書會に加入	四	
茨城縣	五、九	縣立土浦中學、學校教練反對策動	五	
栃木縣	六、一	縣立今市中學、讀書會、左翼團體校内班組織並労働運動參加	八	檢束八 送局八
同	六、七	縣立太田原中學、不穩落書	一	
同	七、三	縣立足利中學、社會科學研究會組織	二	檢束二
愛知縣	四、七	岡崎師範、社會科學研究會組織並國家總動員反對ビラ撤布	六	
岐阜縣	六、五	岐阜師範、社會科學研究	六	
同	七、一	同 極左労働組合組織運動關與	一	檢束一
長野縣	四、五	縣立伊那中學、極左思想研究會組織並アヂ・ビラ撤布	一三	起訴三
福島縣	五、一	縣立蠶業學校、無新支局に關與	二	檢束二
同	六、一二	縣立安積中學、不敬演説	一	檢束一 送局一



岩手縣	六、一二	縣立盛岡中學、社會科學研究會加入、モツブル運動參加	二四	檢束二
同	同	師範、同	六	送檢束局二六
同	同	縣立盛岡農業、同	六	送檢束局二六
秋田縣	六、二	師範、全協教勞加入、讀書會組織、モツブル運動參加	男師一八	檢束一男八
石川縣	六、一	縣立金澤二中、讀書會組織	三	
同	同	縣立金澤商業、同 參加	一	
同	同	縣立金澤工業、同 參加	一	檢束一
富山縣	五、九	縣立射水中學、社會科學研究會組織、勞働運動參加、ビラ撒布	七	
鳥取縣	六、一	縣立第一中學、讀書會組織、左翼雜誌刊行	五	
島根縣	五、九	縣立津和野中學、戰旗購讀	五	
岡山縣	四、七	縣立一中、校友會誌に不穩文章掲載	一	檢束一
廣島縣	四、一一	縣立二中、讀書會組織ビラ配布	五	同 四
山口縣	六、五	山口師範、讀書會組織、不穩檄文配布、盟休煽動	卒 二四	檢束四、卒二 起訴三、卒一
青森縣	六、一〇	縣立商業、學校紛擾策動	一二	
同	六、一二	同 左翼圖書購讀、勞働歌高唱	三	檢束三
同	七、二	同 社會科學研究會組織、秘密文書配布	五	同 五

同	六、一二	縣立青森中學、社會科學研究	三	
高知縣	五、四	高知師範、讀書會組織、ビラ撒布	二	
福岡縣	六、一一	縣立豐津中學、左翼文士と往復し左傾圖書購讀、學校紛擾策謀	三	
宮崎縣	六、八	縣立延岡中學、プロ科支局設置、研究會開催	四	檢束四 不起訴四
佐賀縣	四、八	縣立唐津中學、不穩ポスター貼付、發禁雜誌配布	一	檢束一
同	五、九	私立龍谷中學、學校教練反對の答案提出	一	
同	七、三	縣立佐賀高女、佐高女自治會組織	五	
沖繩縣	四、三	師範、社會科學研究	二五	







(解説)

校規紊亂の生徒を處分したに對し昭和五年十二月九日三年生及び四年生が盟休を行つた。盟休團は第一回に

一、處罰生徒の復校要求

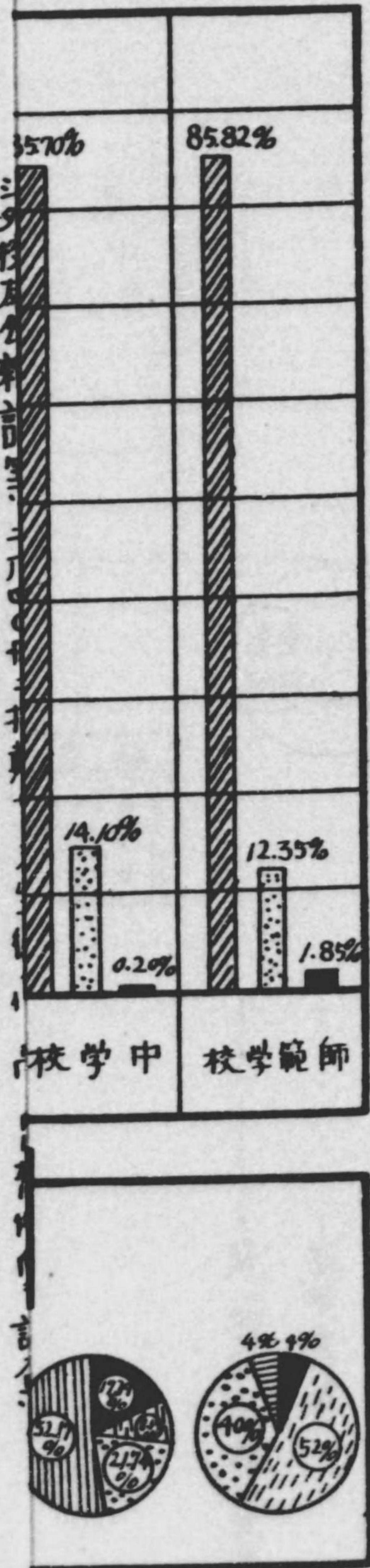
一、團體行動に關し犠牲者を出さざる事

次で第二回は

一、前回の要求を承認せざる時は校長、舎監長、教務主任の辭職を要求す

なる要求書を提出して不穩な行動を繼續したため關係生徒を停學又は謹慎に處し生徒は卒業生團撫子會の説得により謝罪文を學校に出して解決した。T・N讀書會は本事件に關して發覺した同校内の左傾秘密結社であつて盟休を煽動し指導したものである。

### 14 校友會雜誌等の出版物に現れたる中等諸學校生徒の思想傾向表



註ニ 國家的思想傾向トハ國家主義的・皇室尊崇思想・軍事的傾向ヲ示ス

左傾的急進的思想傾向トハ マルクス主義的・有産者ニ對スル反感 無産者ニ對

スル同情・社会ノ矛盾ニ對スル不滿ヲ指入

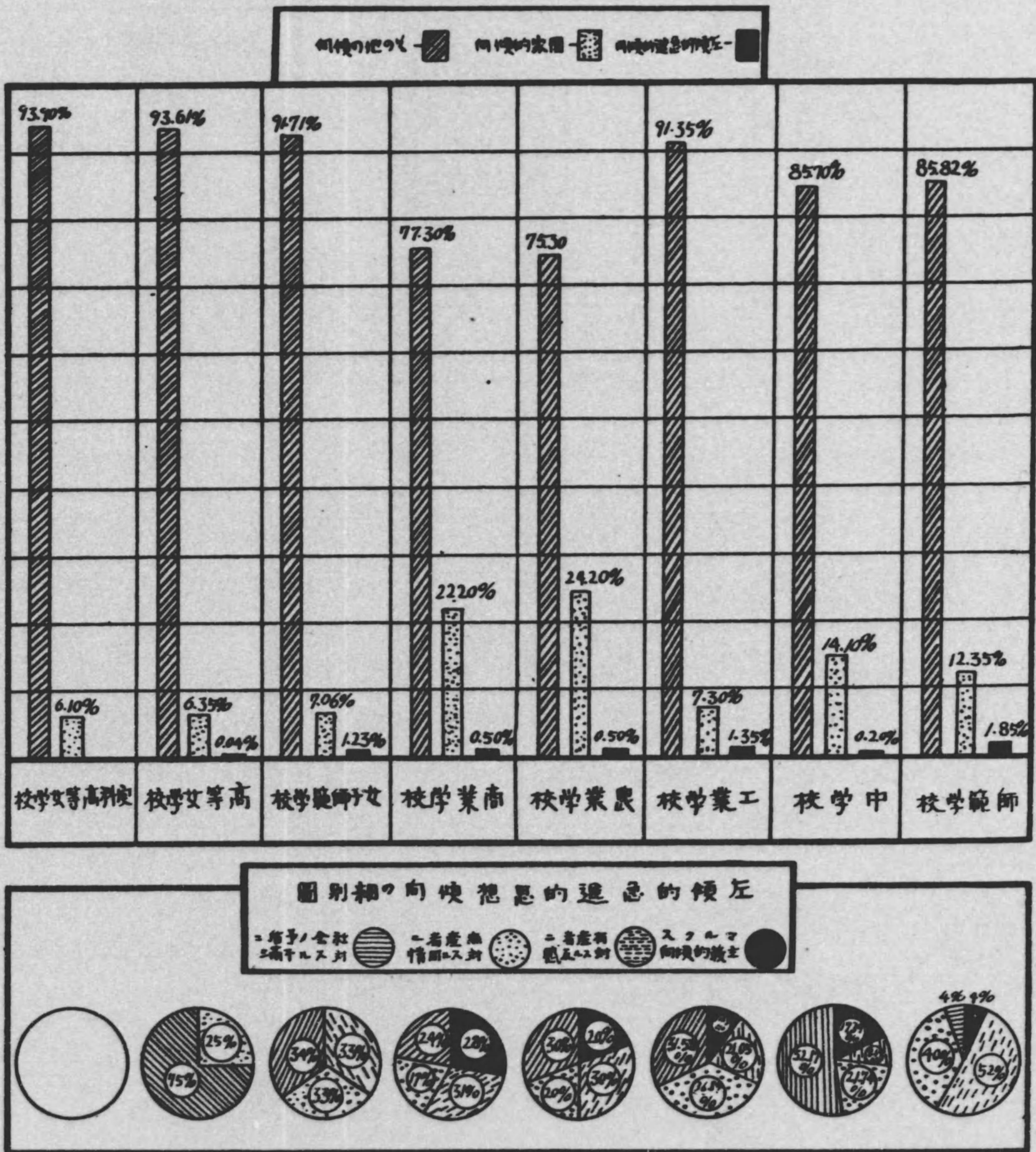
ソノ他ノ傾向トハ (A) 道德的・哲學的・宗教的理想主義的・復古的 自然護仰

的人情的ノ傾向 (B) 感傷的・享乐的・頹廢的ノ傾向 (C) 奮勉努力的 實史

剛健ノ傾向ヲ指入。



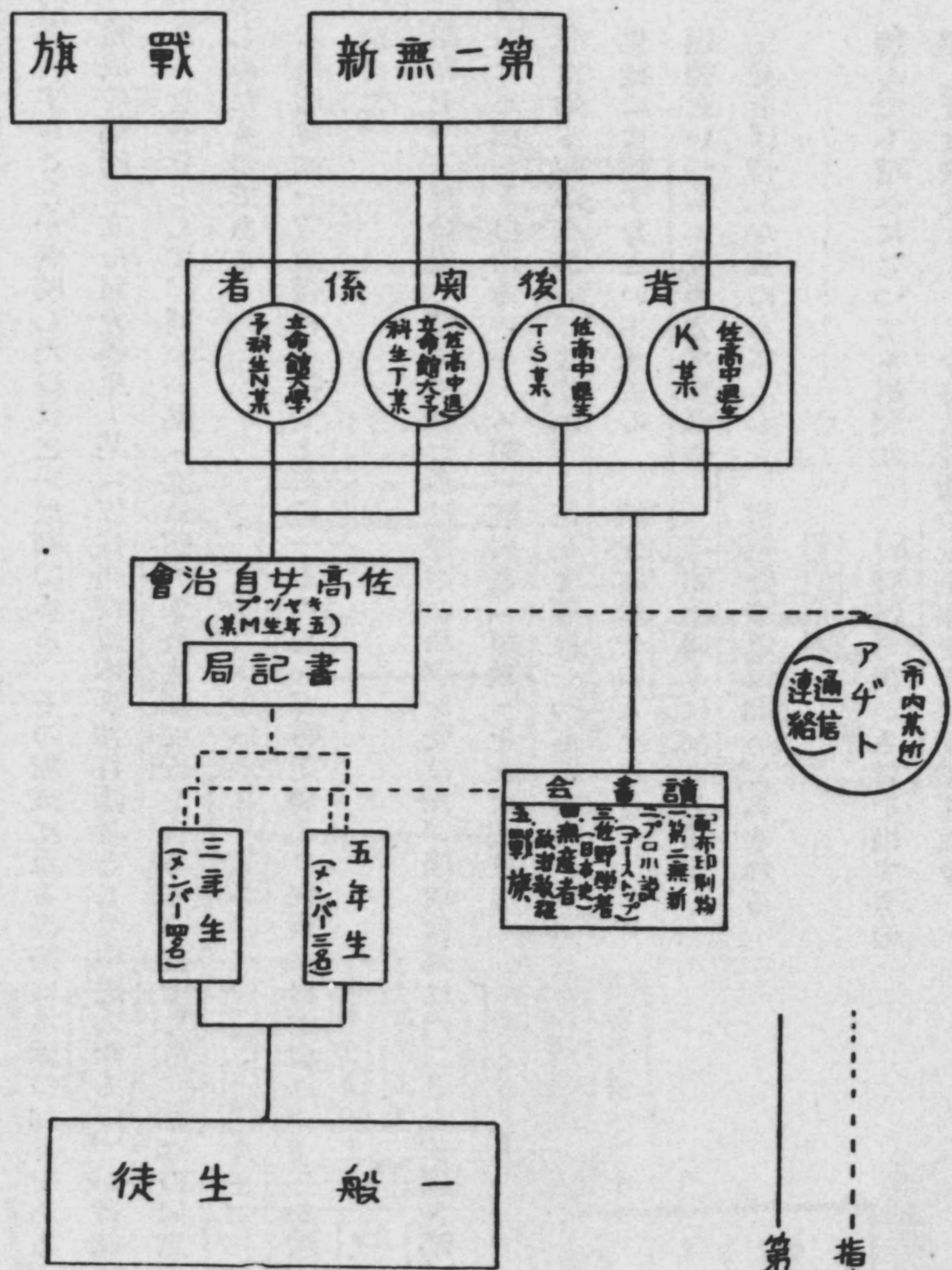
14 校友會雜誌等の出版物に現れたる中等諸學校生徒の思想傾向表



註一、本表ハ全国ノ中等諸學校ニ於テ自昭和四年六月至昭和五年五月間ニ発行シタ校友會雜誌等二六四〇冊ニ掲載サレタ生徒ノ作品ノ思想傾向ヲ調査シテモシタル。

註二、國家的思想傾向トハ國家主義的の思想、尊皇思想、軍事的の傾向ヲ示ス。左傾的の急進的の思想傾向トハ、マルクス主義的、有産者ニ対スル反感、無産者ニ対スル同情、社会ノ矛盾ニ對スル不滿ヲ指入。右傾的の傾向トハ、(A) 道德的、哲學的、宗教的、理想主義的、復古的、自然崇拜的、人情の傾向、(B) 感傷的、享乐的、頹廢的の傾向、(C) 勤勉努力的、實史的、剛健の傾向ヲ指入。





15 佐賀高女に於ける「佐高女自治會」結成に至る徑路圖 (昭和七年三月)



(解説) 昭和七年一月頃佐賀縣立佐賀高等女學校内に佐高女自治會なる左翼組織が結成された。高女に左翼自治組織の存在することが判明したのは之が最初である。その結成に至る経路は本圖の如くである。

一、結成の端緒は立命館大學生I某(佐賀高校盟休事件首謀者として中退したもの)が實妹M某が佐賀高女に在學中であるを奇貨として、同志N某(立命館大豫科生)に旨を含めて來佐せしめ、在郷の同志と協力して潜行的に策動せしめたものである。

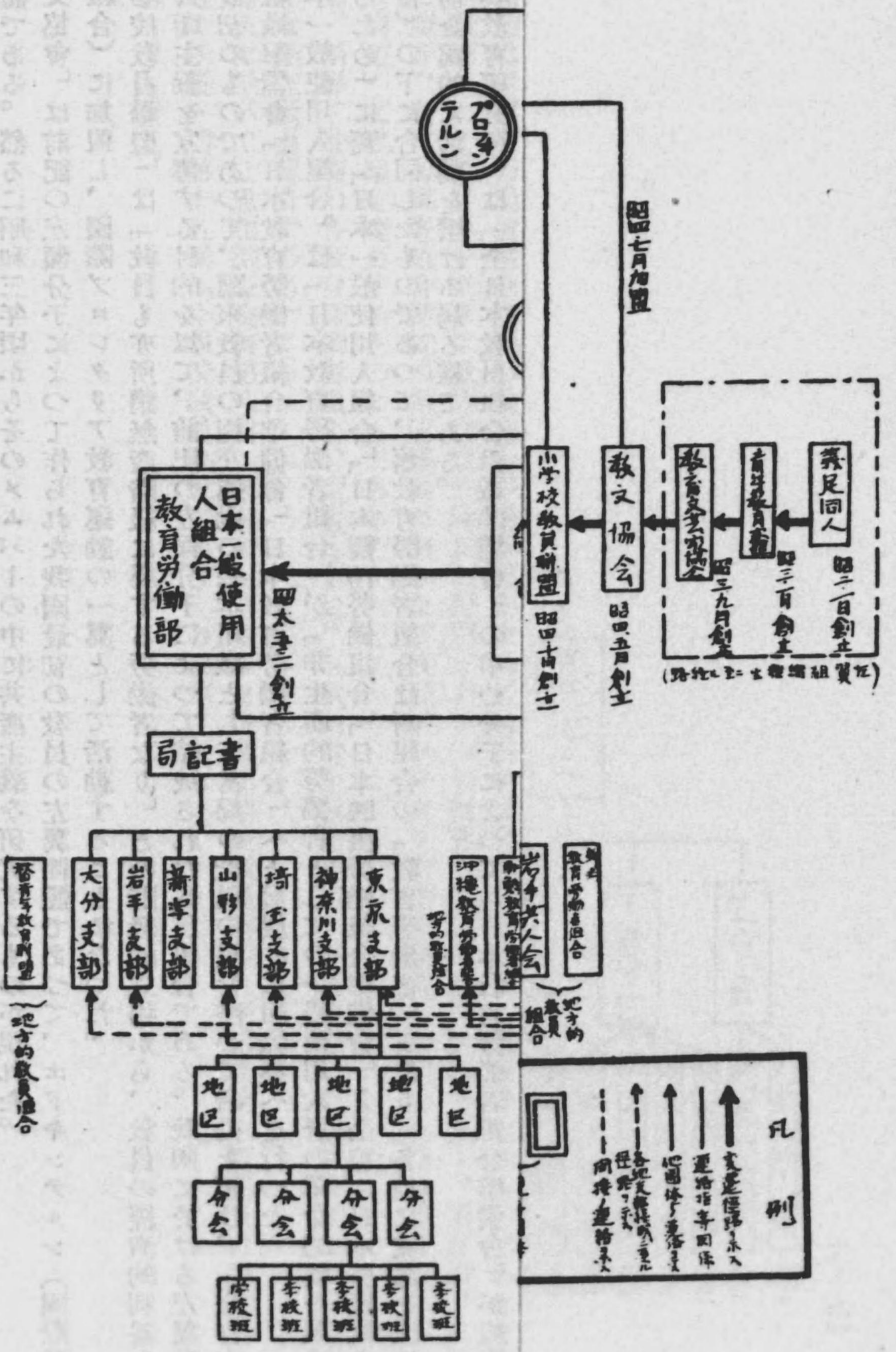
二、右自治會は一方讀書會を持つと共に一方に於いて書記局より佐高女自治會ニュースを發行し一般生徒のアジプロに努めた。

三、昭和七年三月發覺し關係生徒七名は警察の取調を受けた、學校當局は内二名を依願退學、三名を轉學に處した。参考のため佐高女自治會ニュース第一號所載「短歌」を次に掲げる

我は知る何が真かいつはりか 正しき道は一つあるのみ  
生徒には戀すなといふ先生の 戀愛結婚せぬ人ぞなき  
道德をいつもふりかざす校長の 收賄贈賄とは何たる事か  
生徒をば皆んな盲にしてるし 目を覺すとは聞いてあきれる

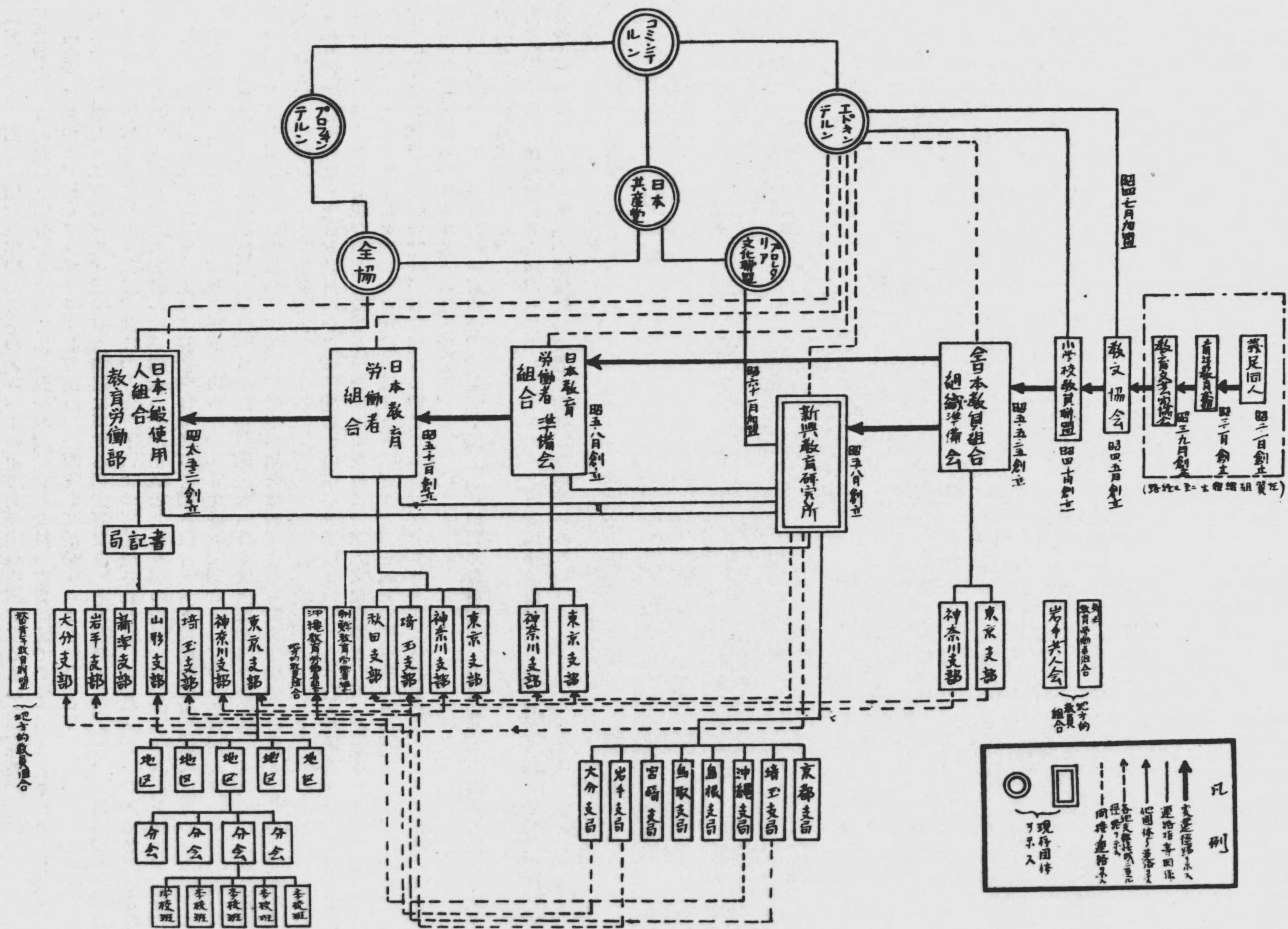
摘んでも踏みにもじつても絶間なく 後から後から目を出すもの  
戀しきは我父—— 今日も新聞の就職欄をあさりますなり  
苦しきも寂しき時も啄木の 歌を思へばそれ／＼に合ふ

### 16 小學校教員の極左組織變遷圖 (昭和七年七月現在)





16 小學校教員の極左組織變遷圖 (昭和七年七月現在)





(解説) 本圖は小學校教員の極左組織の變遷を示したものである。

「義足同人」「青年教育家聯盟」「教育文藝家協會」は東京府青山師範學校出身の一部小學校教員によつて組織された文藝團體である。然るに昭和三年頃からそのメンバーの中に共產主義を研究するものが現れた。

「教文協會」は前記の左傾分子によつて作られた我國最初の教員の左翼團體であつて、エドキンテルン(國際教育労働者組合)に加盟し、國際プロレタリア教育運動の一翼として活動することになった。

「小學校教員聯盟」は「教員も亦所謂無産階級に屬する労働者なり」との階級的立場から、教員の經濟的利益を擁護し、共產主義を宣傳する目的を以て、前記の左傾分子によつて結成された教員組合である。我國に於ける左翼教員組合の最初のものであつて、爾來教員の極左運動の基本組織として當局の監視の眼を潜つて活動を続け、「全日本教員組合組織準備會」「日本教育労働者組合準備會」「日本教育労働者組合」へと發展的に組織換へを行つた。

「日本一般使用人組合」は「日本教育労働者組合」が「非生産的労働者としての一般使用人層の革命的統一戦線を樹立するため」に舊「日本一般使用人組合」「日本醫務労働組合」「日本映畫労働組合準備會」と全協(日本労働組合全國協議會)の下に合同したものであつて、舊教育労働者組合は新組合の「教育労働部」となり、各地に支部を設け、現在も尙全國的に活動を続ける居る様である。

「新興教育研究所」は「全日本教員組合組織準備會」の中心分子によつて「日本教育労働者組合準備會」が組織されると同時に、教育労働者組合運動の効果を一層擧げるために合法的文化團體として、創立されたものである。機關誌「新興教育」によりプロレタリア教育理論の確立と所謂ブルジョア教育の暴露排撃を主張しつゝ、讀者網、支局網を全國に擴げ、教育労働者組合結成の氣運醸成に努めた。最近プロレタリア文化聯盟に加盟しその指導に基き將來「新興教育同盟」に組織を變更することである。

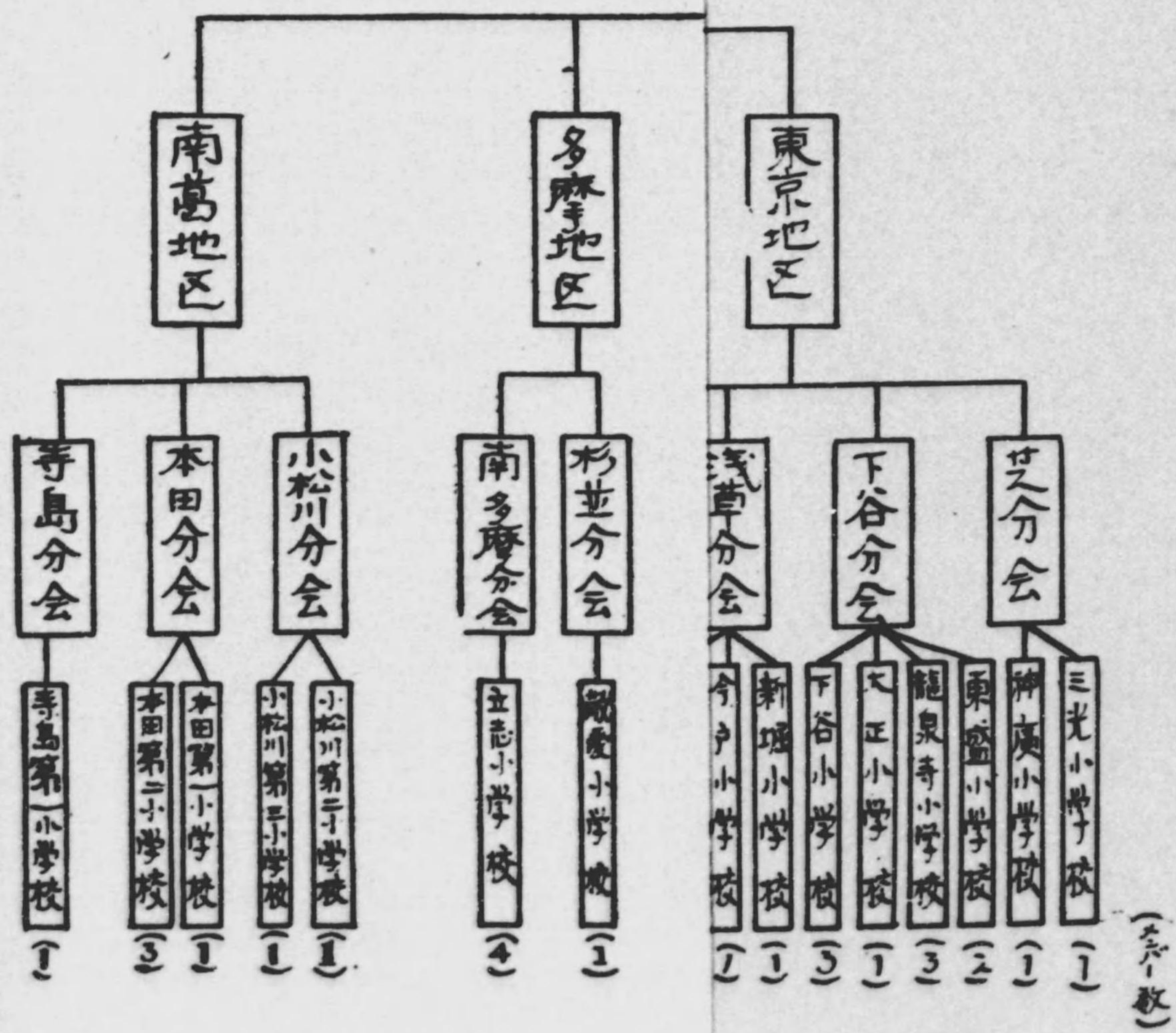
新潟、朝鮮、沖繩の各教育労働者組合、「岩手共人會」「秋田青年教員聯盟」等は前記の全國的組織とは關係のない地方的な極左教員組合である。

尙詳細に就いては思想調査資料第八輯「エドキンテルンと我國小學校教員聯盟」同第九輯「新興教育研究所の組織と最近の活動」同第十五輯「小學校教員の思想事件」を参照されたい。



(解説) 本圖は小學校教員の極左組織の變遷を示したものである。  
「義足同人」「青年教育家聯盟」「教育文藝家協會」は東京府青山師範學校出身の一部小學校教員によつて組織された文

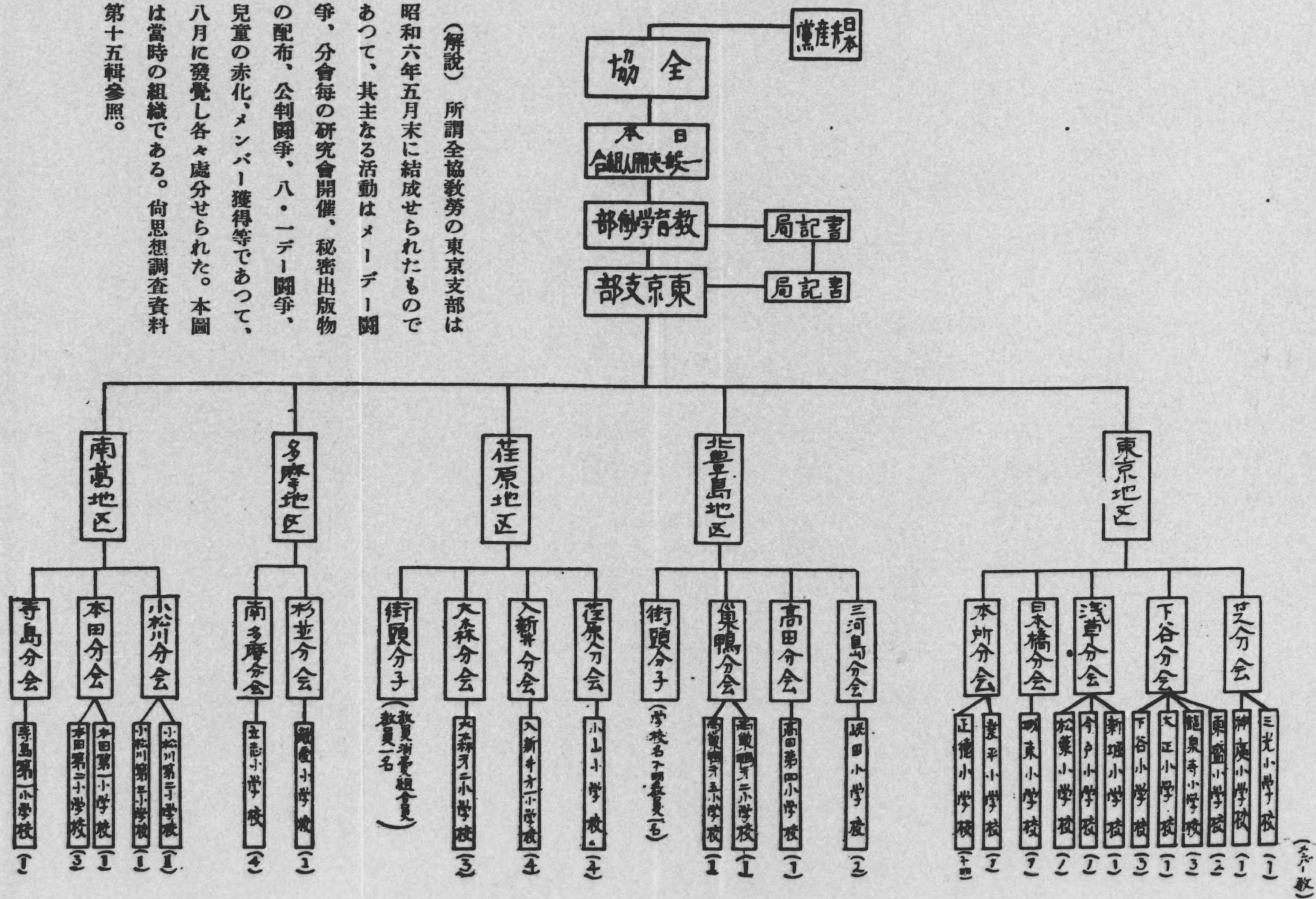
17 全協日本一般使用人組合教育労働部東京支部組織圖 (昭和六年八月)



争、分會毎の研究會開催、秘密出版物の配布、公判闘争、八・一デー闘争、兒童の赤化、メンバー獲得等であつて、八月に發覺し各々處分せられた。本圖は當時の組織である。尙思想調査資料第十五輯参照。



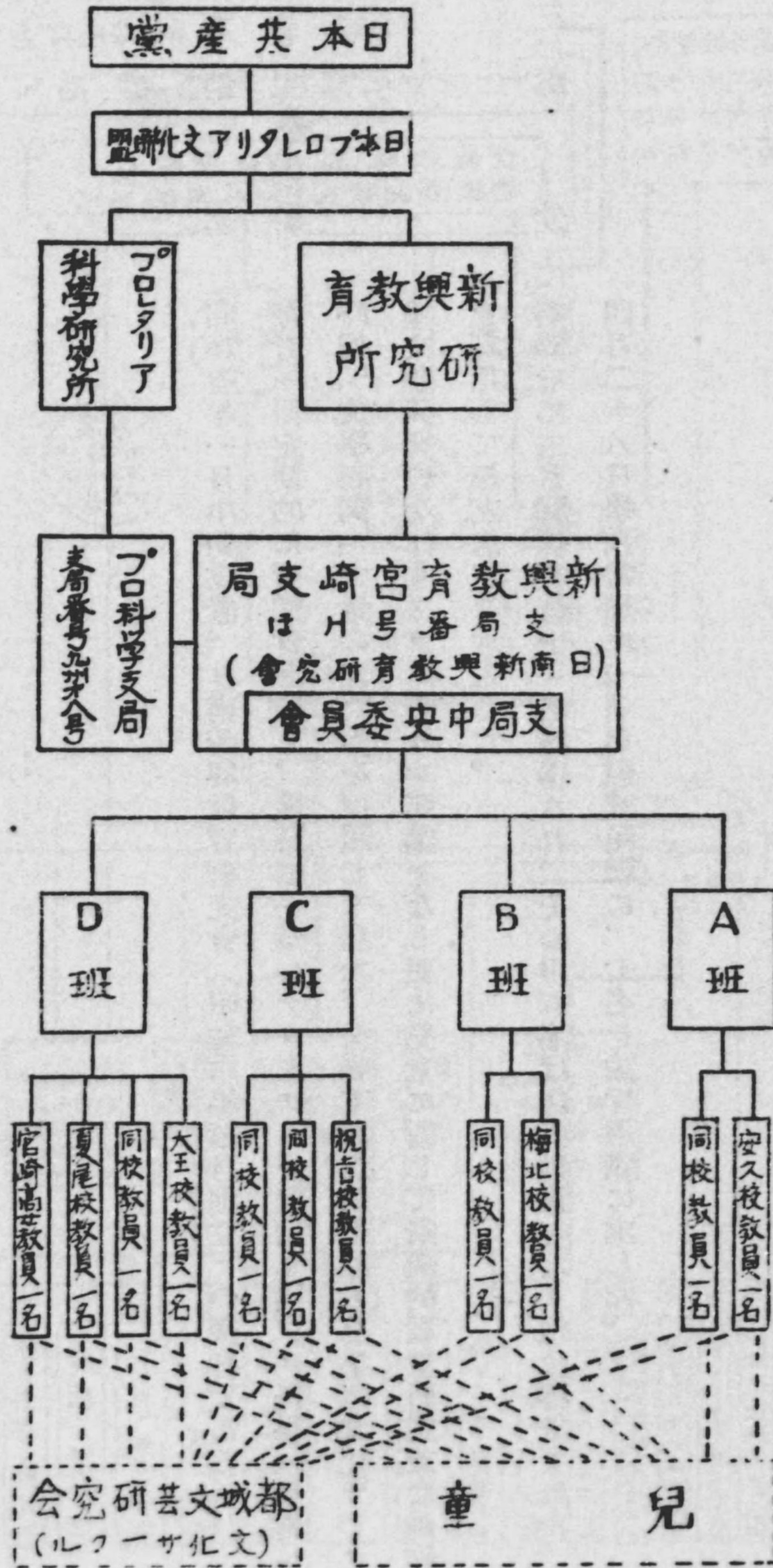
17 全協日本一般使用人組合教育労働部東京支部組織圖 (昭和六年八月)





新興教育研究所宮崎支局組織圖

(昭和六年九月)









(解説)

本圖は昭和五、六年度に於ける、小學校教員思想事件に關する報告に基き作製した。此等の左傾教員の校内に働き掛けた事例は極めて少く多くは校外運動に終止してゐる。

- (1) 自己の下宿に児童を集めて階級的イデオロギーの教育を施す
- (2) ビオニールの組織運動
- (3) 左翼諸團體の支部或は支局設置の運動
- (4) ニュース発行、左翼新聞、雜誌其の他の取扱販賣、救援、其他基金募集
- (5) 小作争議、労働争議の後援、デモの計畫等である。

圖中に示されないもので小學校教員の左傾の一般的原因と認められる條項には

- (一) 新興教育研究所、全協教育労働部、教育労働者協議會等の極左組織の宣傳煽動
- (二) 一般極左運動に對する無知識と無警戒
- (三) 社會思想に對する公正な知識の缺乏
- (四) 教育者の思想の缺乏等である。

20 小學校教員思想事件一覽表

▲印は個人的事件

府縣名	發覺年月	事 件	關係者數	起 訴
北海道	五、五	勇拂郡追分小學校、戦旗支局設置計畫	一	檢束 一
同	五、一二	函館市谷地頭小學校、戦旗支局設置に關與	一	起訴 猶豫 一
東 京	四、一二	小學校教員聯盟組織	四五	檢束 二八
同	六、六	▲五日市小學校、共產主義研究、兒童に赤化思想注入	一	檢束 一
同	六、八	全協教育労働部支部組織	四四	檢束 二〇
京 都	六、六	新興教育支局設置	二九	檢束 二五
大 阪	六、一二	▲泉南郡新家小學校、教育新人會設置策謀	一	檢束 五
同	七、四	プロット支部加盟	五	檢束 五
神奈川	六、九	全協教育労働部支部組織	二三	起訴 檢束 猶豫 二三
長 崎	七、四	▲南高來郡西有家小學校、プロ科學支局に關與	一	檢束 一
新 潟	五、六	教育労働者組合組織	一二	起訴 檢束 一 二 二
埼 玉	五、一	社會科學研究會組織	二	檢束 一



同	六、八	全協教育労働部支部組織	一八	檢束 起訴 一〇
群馬	六、一一	社會科學研究	五	檢束 送局 一五
千葉	六、一二	新興教育支局設置計畫	二	檢束 二
栃木	五、五	讀書會組織並に新聞紙法違反	三	檢束 一
静岡	五、六	▲静岡市新通小學校、極左思想研究、兒童赤化思想注入	一	檢束 一
同	五、六	同 宣傳	三	檢束 三
岐阜	六、一二	羽島郡上羽栗小學校、全協教育労働部支部計畫	師範生 一	檢束 送局 一
長野	五、八	▲北安曇郡七貴小學校、共產黨に關與	一	檢束 一
宮城	五、一二	不敬事件並に極左思想研究	二	檢束 起訴 一
福島	六、一〇	不穩印刷物作製配布	二	檢束 送局 一
岩手	五、一一	秘密結社組織	七	檢束 起訴 一
同	七、四	全協教育労働部支部組織	二	檢束 起訴 一
山形	七、三	全協教育労働部支部組織	一	檢束 送局 一
秋田	六、二	日本教育労働者組合組織	師範生 六	檢束 送局 起訴 三

石川	六、八	新興教育研究所第二回講習會受講	二	檢束 三
鳥取	七、一	新興教育支局設置	七	檢束 一四
島根	七、四	新興教育支局設置	一四	檢束 送局 一四
和歌山	六、一〇	モップル支部組織	四	檢束 送局 四
香川	六、一二	左傾思想研究並兒童に極左思想注入	五	檢束 一
佐賀	六、四	▲東松浦郡芳谷小學校、社會科學研究	一	檢束 一
宮崎	七、四	新興教育支局設置	中等教員 一	檢束 一
鹿兒島	五、七	▲大島郡俵小學校、労働組合運動參加	一	檢束 一
沖繩	六、三	教育労働者組合組織	一七	檢束 起訴 一七 起訴 四

21 ビオニール (共產主義少年團) 一覽表 (昭和七年六月現在)

名	稱	所在地	設立年月日	團員數	設立の動機	背景	主なる活動	現況
加納	岩ビオニール	山梨	昭四、五	八	階級意識昂揚同		給「無新」辻賣	同
土陸	ビオニール	千葉	昭四、二	一七	小作争議	全國農民組合	同盟休校、農氏學校開設、少年行商隊	自然消滅

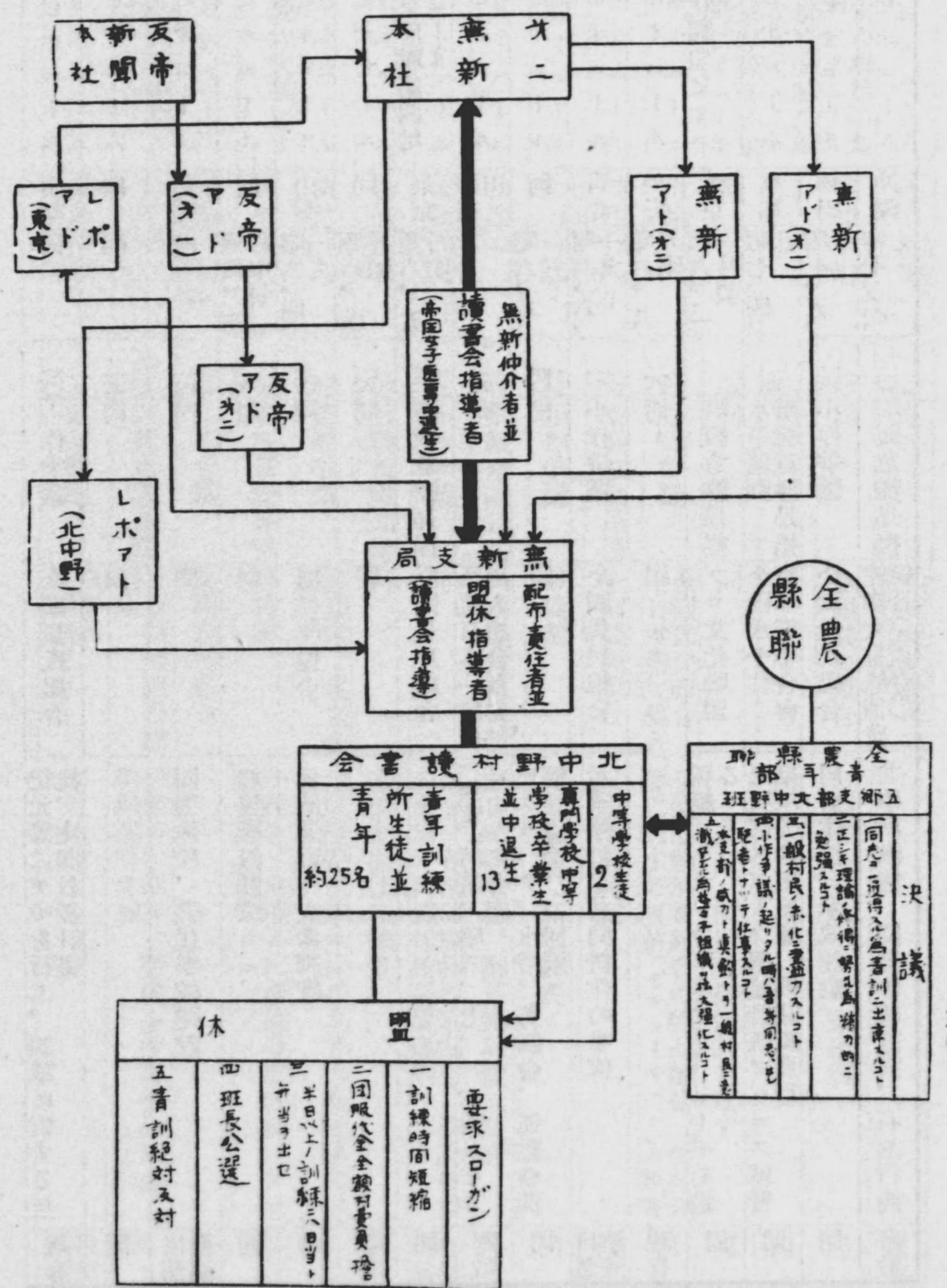


山之神ビオニール	同	昭四、一〇	一六	同	山梨民衆青年同盟(社民系)		現存
全農東京府第一地	東京	昭五、一	二〇	同	全農東京府第一地	日曜學校開設、プロ畫練習	同
全農青戸第二地	同	同	二〇	同	同	同	同
全農水元第三地	同	同	二〇	同	同	同	同
全農東京府第三地	同	同	二〇	同	同	同	同
全農佐野第四地	同	同	二〇	同	同	同	同
落合ビオニール	山梨	昭五、三	六	小作爭議	全農東京府第一地	一ヶ月三、四回宛御伽話をなす	同
潮止ビオニール	埼玉	昭五、三	三	階級意識昂揚	全農東京府第一地	示威運動消費組合の物品配給、受持訓導に對する反抗「ビオニールパン」の販賣	同
蜂須賀ビオニール	北海道	昭五、三	三	小作爭議	全農東京府第一地	日曜學校開設	同
里吉ビオニール	山梨	昭五、四	三	階級意識昂揚	全農東京府第一地	同盟休校、私宅教授	同
上瓦屋ビオニール	大阪	昭五、四	三	小作爭議	全農東京府第一地	祭日に餅取粉、海苔蠅取紙の販賣	同
豊里ビオニール	宮城	昭五、七	二五	階級意識昂揚	全農東京府第一地	傳令、各種印刷物の貼撒布、演說會場の準備、同盟休校示威運動	同
大島ビオニール	東京	昭五、九	四	階級意識昂揚	全農東京府第一地	赤旗を揚げて球戯	同
労働黨愛知支部ビオニール	愛知	昭五、一	一五	階級意識昂揚	全農東京府第一地	示威運動、プロレタリア小學校開設、ビクニツク	同
國分村ビオニール	千葉	昭五、一	一〇	小作爭議	全農東京府第一地	士曜日、日曜日に赤旗の歌教授、プロ漫畫教授、ビクニツク	同
日本労働組合總聯合會	大阪	昭六、一	三〇	階級意識昂揚	全農東京府第一地	労働少年學校、労働少年音樂團組織、労働運動参加	同
大阪ビオニール	奈良	昭六、二	三	差別問題	全農東京府第一地	同盟休校	同
掖上ビオニール	同	同	同	同	全農東京府第一地	同	同

富士見ビオニール	山梨	昭五、一	三〇	小作爭議	全農東京府第一地	紀元節にデモを行ふ、訓導に對する反抗、夜間教授計畫	現存
二宮ビオニール	同	同	一五	同	全農東京府第一地	同	同
木造ビオニール	青森	昭六、三	一四	同	全農東京府第一地	同盟休校、農民學校開設	同
車力ビオニール	同	昭六、三	一五	同	全農東京府第一地	農民學校開設	同
船津ビオニール	山梨	昭六、四	二〇	同	全農東京府第一地	示威運動、大衆訓練	同
國府ビオニール	同	昭六、四	二五	同	全農東京府第一地	同	同
全農東京府第四地區	東京	昭六、五	三	階級意識昂揚	全農東京府第一地	同	同
松林ビオニール	神奈川	昭六、六	一五	同	全農東京府第一地	「無青」回讀、昭六、七、二六馬入ビオニールに合同	同
馬入ビオニール	同	昭六、六	四	同	全農東京府第一地	ピクニツク、水浴、御話會、運動會開催、「無青」の回讀	同
猿賀ビオニール	青森	昭六、六	一七	小作爭議	全農東京府第一地	示威運動、共同耕作の手傳	同
田口ビオニール	長野	昭六、八	二	同	全農東京府第一地	同	同
プロ文化聯盟ビオニール	東京	昭六、一	二	階級意識昂揚	全農東京府第一地	獨紙ローテフアーネにメッセーチを送る	同
養正ビオニール	京都	昭七、四	一五	水平運動	全農東京府第一地	出版部スポーツ班演劇班プロエス班音楽班美術班組織、機關紙發行	同
樋ノ口ビオニール	秋田	昭七、五	三	小作爭議	全農東京府第一地	同盟休校、示威運動	同
仲好會ビオニール	沖繩	昭七、六	二〇	階級意識昂揚	全農東京府第一地	共學所設置、同盟休校計畫、石油行商解散	同



22 青森縣南津輕郡北野青年訓練所スライトキ  
 至る徑路圖 (昭和六年六月)



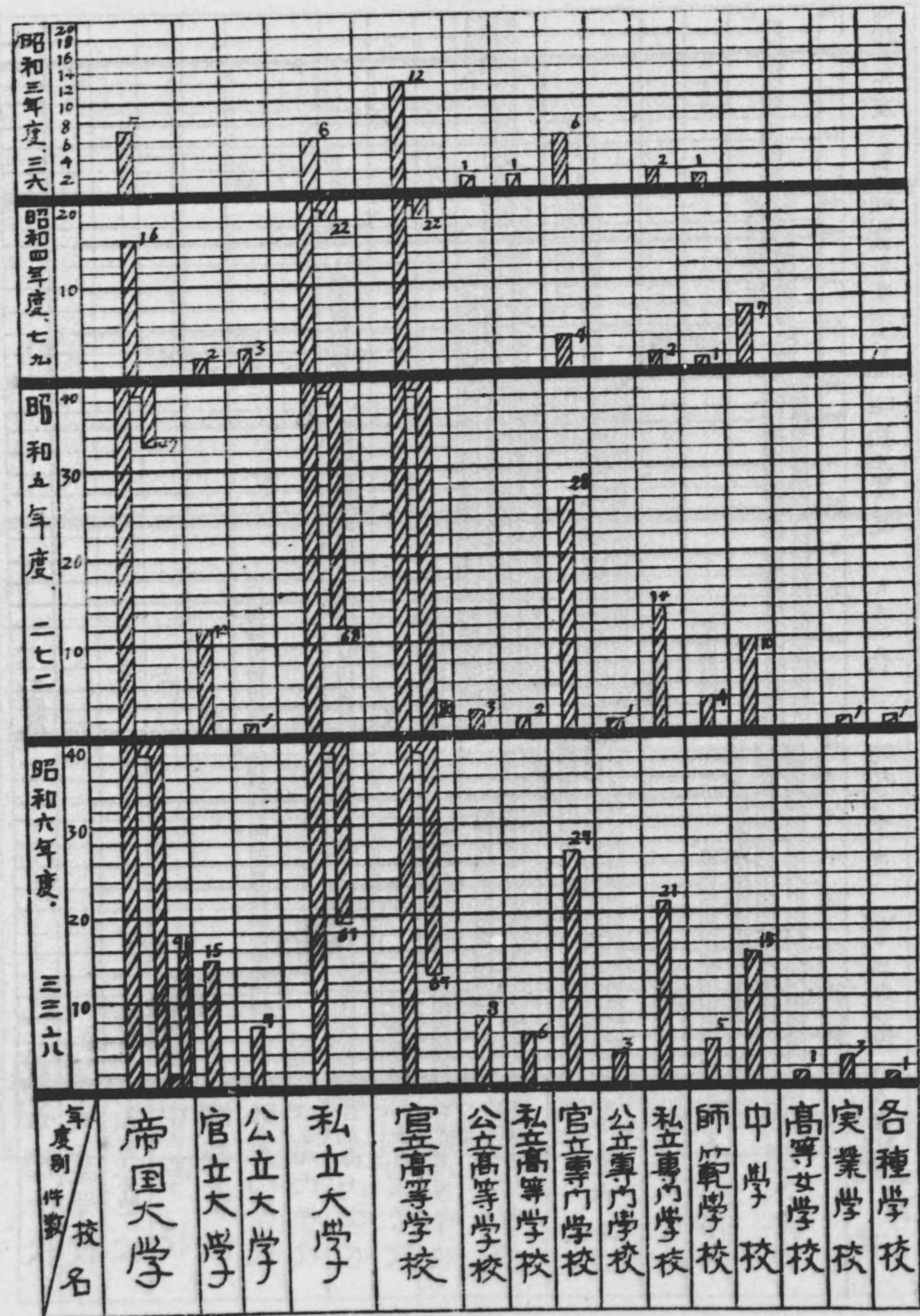
(解説)

- 一、昭和五年十二月第二無産者新聞並に反帝新聞配布網を基礎として結成せられた北中野村讀書會メンバー中の青訓生が中心となり、昭和六年七月十六日要求スローガン五項を掲げて盟休に入った。
- 二、裏面關係が判明し主謀者並に指導者以下讀書會メンバー大部分檢舉せられたため該盟休は自然消滅した。
- 三、全農縣聯青年部五郷支部北中野班(六年六月結成)メンバーと讀書會メンバーとは同一である。









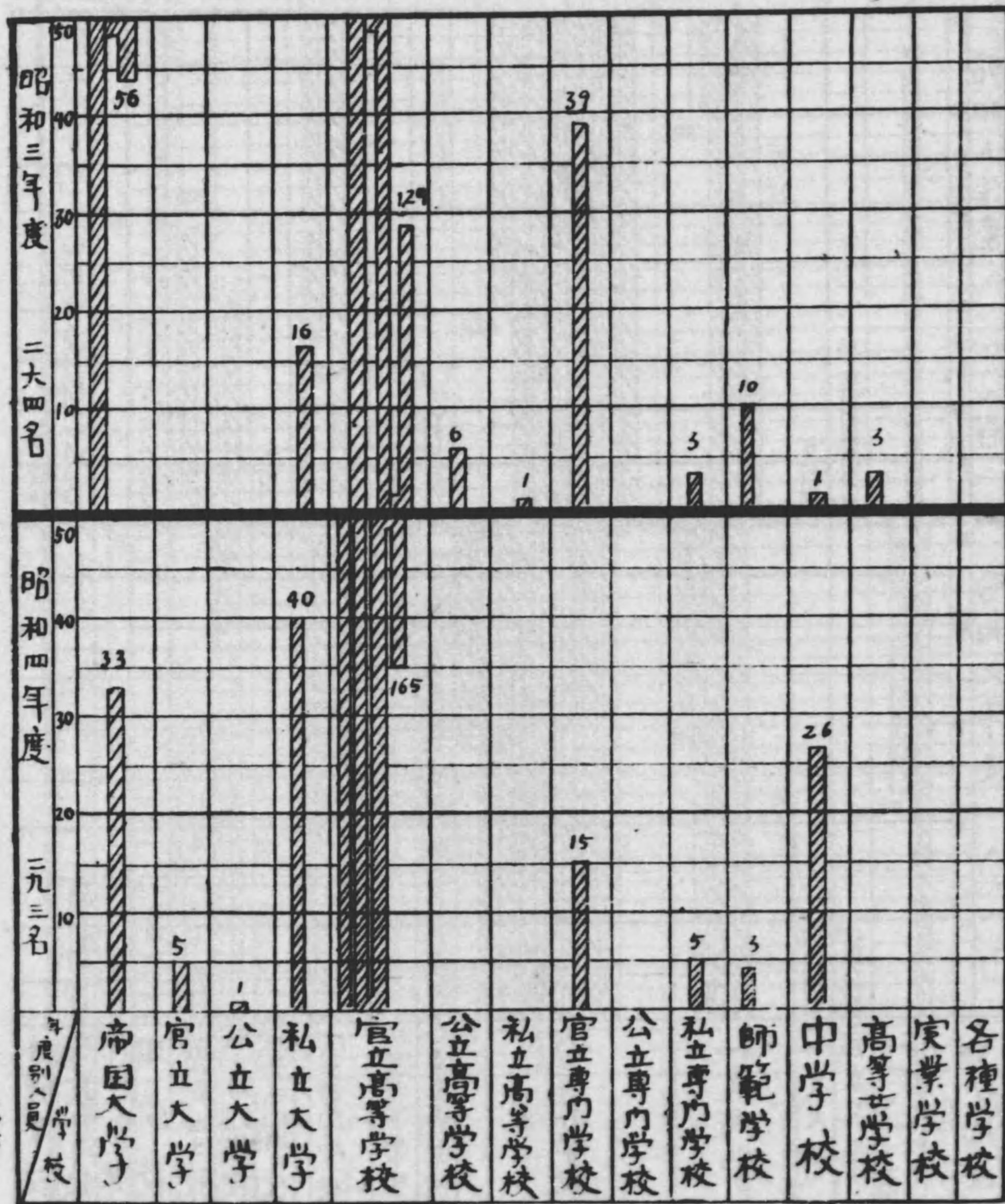
五五

同年九月ピオニールの暴行事件その他二三の誤謬失敗によりピオニールを再び學校自治會へ解消した。尙解消後の學校自治會の活動は兒童體育會開催、親切デーの決行、學校の垣根修理の勞力奉仕等であり、十月には舊ピオニール分子が五年生二十名を動員して被檢束教員の釋放方を校長に要求した。

五四

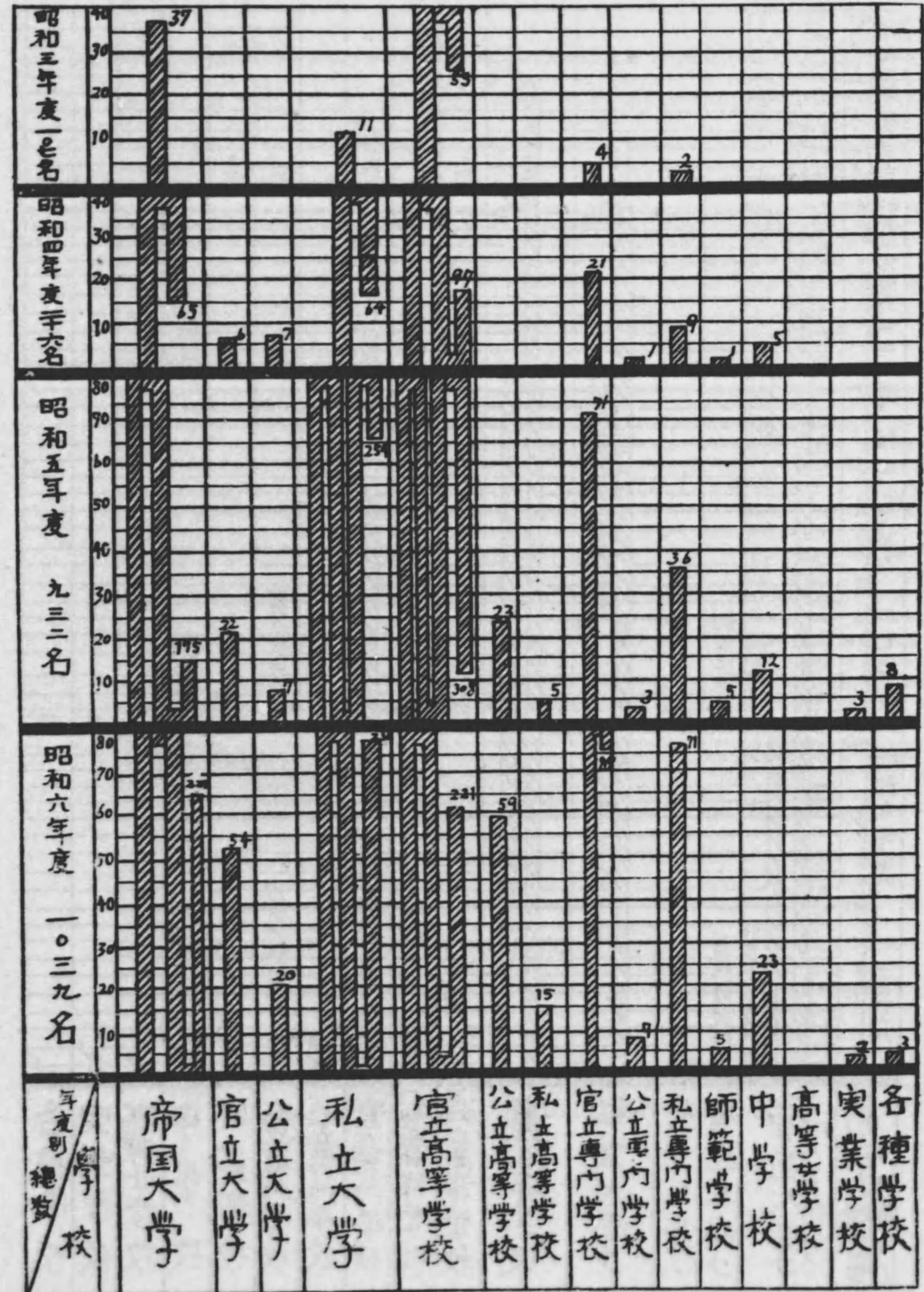


(月四年七和昭) 計統數徒生學分處 年度三和昭自 年度六和昭至 近最 26



五七

(月四年七和昭) 計統數徒生學東檢被 年度三和昭自 年度六和昭至 近最 25

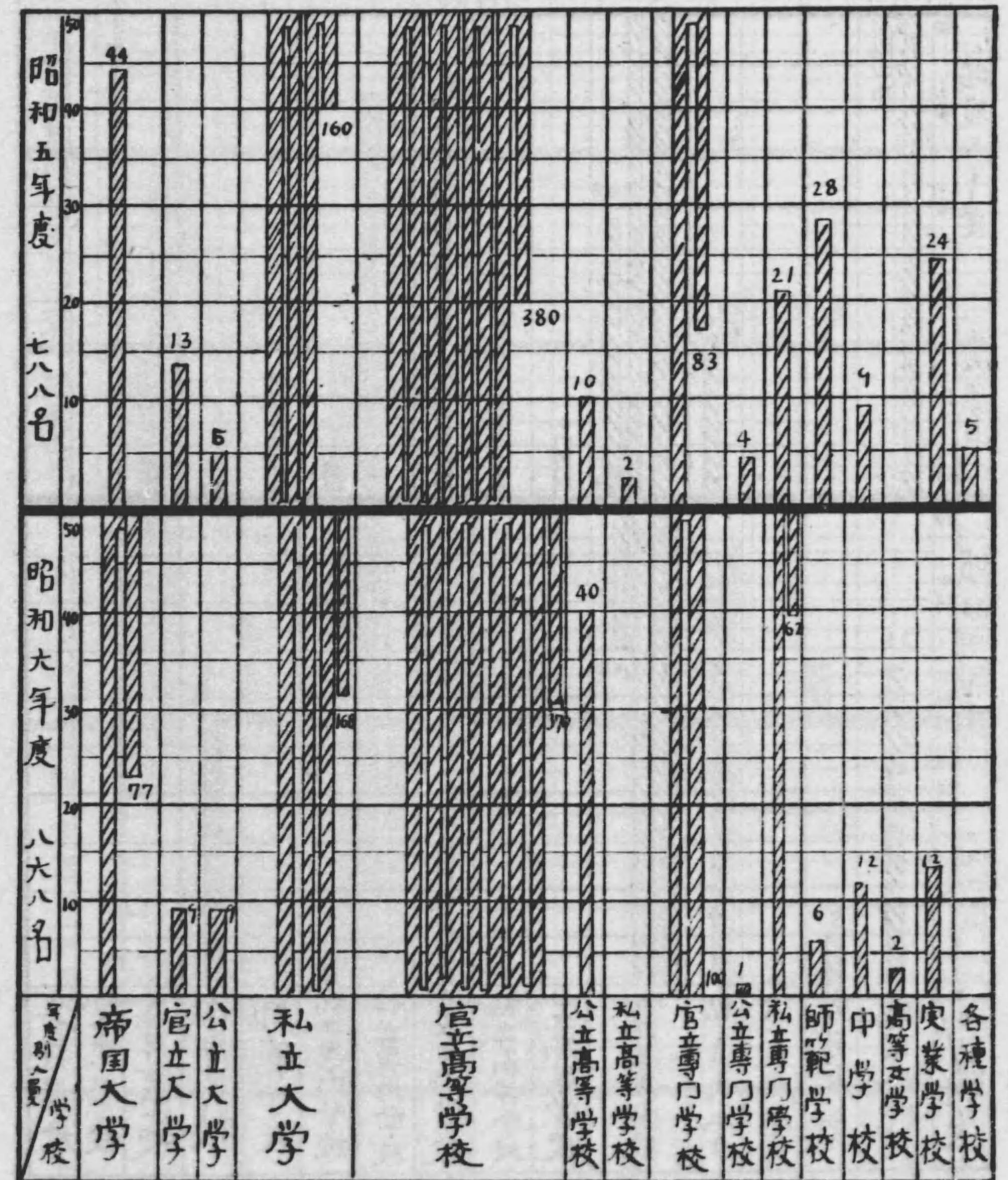
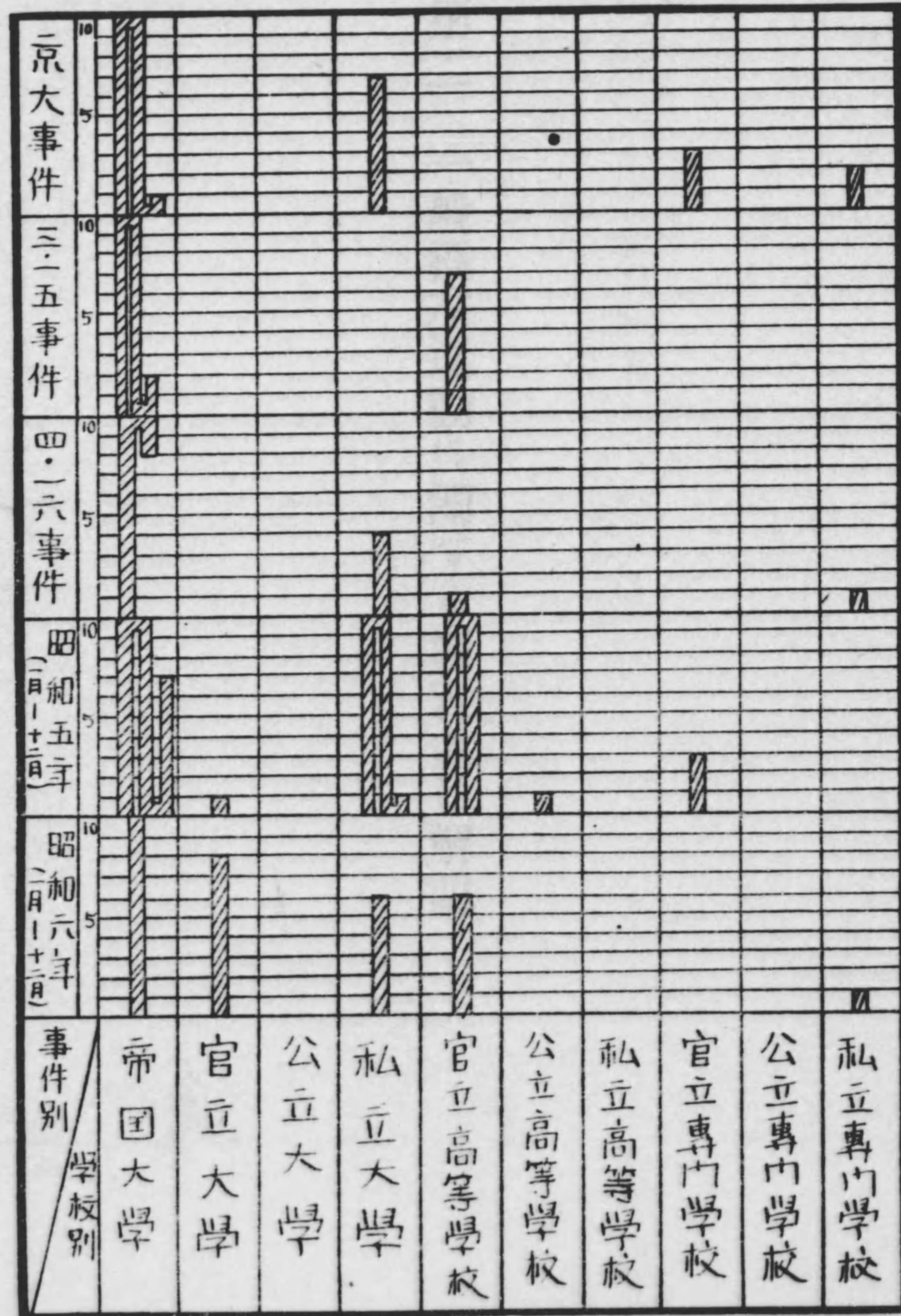


五六



治安維持法違反事件關係學生數統計 27

(昭和七年四月)









1 極左諸團體一覽表 (昭和七年八月現在)

團體名稱	略稱	摘 要	機 關 誌 (紙)
日本共產青年同盟	共青若くは同盟	コミンテル(國際共產黨)日本支部	赤旗、黨建設者、ボルシェヴィキ(未刊)
日本労働組合全國協議會	全協	キーム(國際共產青年同盟)日本支部 プロフィンテルン(國際赤色労働組合)日本支部	無産青年 労働新聞・全協の旗の下に
日本出版労働組合			出版労働者
日本金屬労働組合			金屬労働者
日本交通運輸労働組合			交通労働者
日本電氣労働組合			電氣労働者
日本纖維労働組合			纖維労働者
日本化學労働組合			化學労働者
日本通信労働組合			通信労働者
日本食料労働組合			食料労働者
日本土木建築労働組合		此組合中に關東自由労働組合・(東京)市従業員組合加盟	土木建築・(市從)都労働者
日本木材労働組合			
日本鑛山労働組合準備會			



日本農業労働者組合準備會 日本一般使用人組合	日本失業者同盟	失同	官廳班・醫務労働部・映畫労働部・商 業労働部・金融労働部・教育労働部・商 市場労働部に分る	一般使用人、一般使用 人教育労働版
全國農民組合改革労働政黨支持 強制反對全國會議	全農全國 會議	反帝	全國農民組合内の極左派(所謂革命的 反對派)	農民新聞
日本赤色救援會	赤救若くは モツブル	反帝	反帝國主義民族獨立支持同盟日本支部	反帝新聞
日本労働者救済會準備會	労働救	労働救	國際赤色救援會日本支部 國際労働者救済會日本支部たらんとす るもの	救済新聞
日本プロレタリア文化聯盟	コップ	コップ	國際革命作家同盟日本支部	労働ニュース
日本プロレタリア作家同盟	作同	作同	國際革命的美術家同盟日本支部	プロレタリア文化、大衆 の友、働、婦人ウリントム、 プロレタリア文學、文 學新聞
日本プロレタリア美術家同盟	ヤツプ(舊 P・P)	ヤツプ(舊 P・P)	國際労働者演劇同盟日本支部	プロレタリア美術・美 術新聞
日本プロレタリア演劇同盟	プロット	プロット	昭和六年九月プロキノより獨立せるも 國際プロレタリア無神論者同盟日本支 部の	プロット・演劇新聞
日本プロレタリア映畫同盟	プロキノ	プロキノ		プロキノ・映畫クラブ
日本プロレタリア音楽家同盟	P・M	P・M		音楽新聞
日本プロレタリア寫真家同盟	プロ・フ	プロ・フ		戰闘的無神論者・われ らの世界
日本戰闘的無神論者同盟	戰無	戰無		

新興教育研究所	新 教	最近新興教育同盟なる大衆組織に解消 しつつあり	教育新聞、ピオニール 讀本
プロレタリア科學研究所	プロ科	最近プロレタリア科學者同盟なる大衆 組織に解消しつつあり	プロレタリア科學・わ れらの科學・マルクス 主義の旗の下に カマラード
(體) 日本プロレタリア、エスベ ランチスト同盟	プロエス・ 舊ボ・エ・ウ プロB・C		産兒制限運動
無産者産兒制限同盟			
プロレタリア圖書館			
解放運動犠牲者救済辯護士團	辯護士團		救済辯護士團ニュース
産業労働調査所	産 勞		産業労働時報・インタ ナショナル・建築のソ ヴェート同盟
プロレタリア醫療同盟			
日本無産者消費組合聯盟準備會		關東消費組合聯盟が提唱結成準備中	消費組合新聞(關消)

(考 備) イ、第二無産者新聞社——昭和六年十一月日本共産黨に編入され、七年三月「第二無産者新聞」は廢刊となる  
ロ、無産青年社——昭和六年十一月日本共産黨に編入され、従來の同盟機關紙「レーニン青年」  
ハ、戦 旗 社——プロレタリア文化聯盟の出版部確立と共に解消した  
ニ、ナ ツ 社——プロレタリア文化聯盟結成と共に其中に解消した  
ホ、農民闘争 社——全農全國會議機關紙としての「農民闘争」は「赤旗」「農民新聞」に合流した



2 主要極左記念日一覽表 (昭和七年六月調)

六四

月	日	名 稱	備 考
一月	十五日	カール・ローザの日	獨逸の革命家カール・リープクネヒト及びローザ・ルクセンブルグの暗殺されし日(一九一九年)
一月	二十一日	レーニンデー	レーニンの死亡せし日(一九二四年)
自一月	二十五日	三Lデー(又は闘争週間)	前記三名の姓の頭文字(L)を採りて呼稱せるもの
二月	一日	入營反對デー	反帝同盟を中心として行はる
二月	十一日	建國祭撲滅デー	
二月	十六日	二・一六記念日	第五次日本共産黨檢舉日(昭和五年)
自二月	(不定期)	失業反對デー	各國夫々の情勢に應じ毎年大凡上記期間中に日を定む、日本に於いては、昭和六年二月廿五日、昭和七年二月十九日に行へり
三月	一日	朝鮮獨立萬歳事件記念日	(大正八年)
三月	五日	第三インターナショナル創立大會記念日	(一九一九年)
三月	五日	山宣暗殺記念日	元代議士山本宣治の暗殺されし日(昭和四年)
自三月	六日	汎大洋プロレタリア文化週間	日本プロレタリア文化聯盟加盟團體が中心となつて行ふ
三月	八日	國際婦人デー	ロシア・ベトログラードの女工が總罷業を行つた日(一九一七年)
三月	十日	陸軍記念日反對デー	反帝同盟を中心として行はる

三月	十五日	三・一五記念日	第二次日本共産黨檢舉日(昭和三年)
三月	十八日	パリ・コンミュン記念日	一八七一年巴里に於いて労働者が自治政府を組織(一時的)した日
四月	十日	三團體解散記念日	労働農民黨・日本労働組合評議會・全日本無産青年同盟の結社禁止發令日(昭和三年)
四月	十六日	四・一六記念日	第三次日本共産黨檢舉日(昭和四年)
五月	一日	メーデー	我が國に於いては大正九年第一回メーデー開催さる
五月(不定期)		プロレタリア文化祭	メーデー後に日本プロレタリア文化聯盟加盟團體に於いて行ふ
自五月	十四日	國際兒童週間	ソヴェート・ロシアに於いては一週間、我が國に於いては二週間行はる
五月	五日	マルクスデー	カアル・マルクスの誕生日(一八一八年)
五月	二十七日	海軍記念日反對デー	反帝同盟を中心として行はる
五月	三十日	五・三〇記念日	上海に於ける同盟罷業團と警察隊との衝突事件の日(一九二五年)
六月	十日	六・一〇記念日	李王殿下の葬儀に際しての騷擾事件の日(大正八年)
七月(第一土曜日)		國際消費組合デー	一九二三年以來實施
八月	一日	國際赤色デー(又は反戦デー)	歐洲大戰十五週年の前日たる一九二九年八月一日を第一回國際赤色デーと決定す
八月	二十九日	朝鮮併合記念日(又は國恥記念日)	(明治四十三年)
九月	一日	震災記念日	大正十二年の關東大震災に際しての所謂鮮人問題を記念せるもの

六五



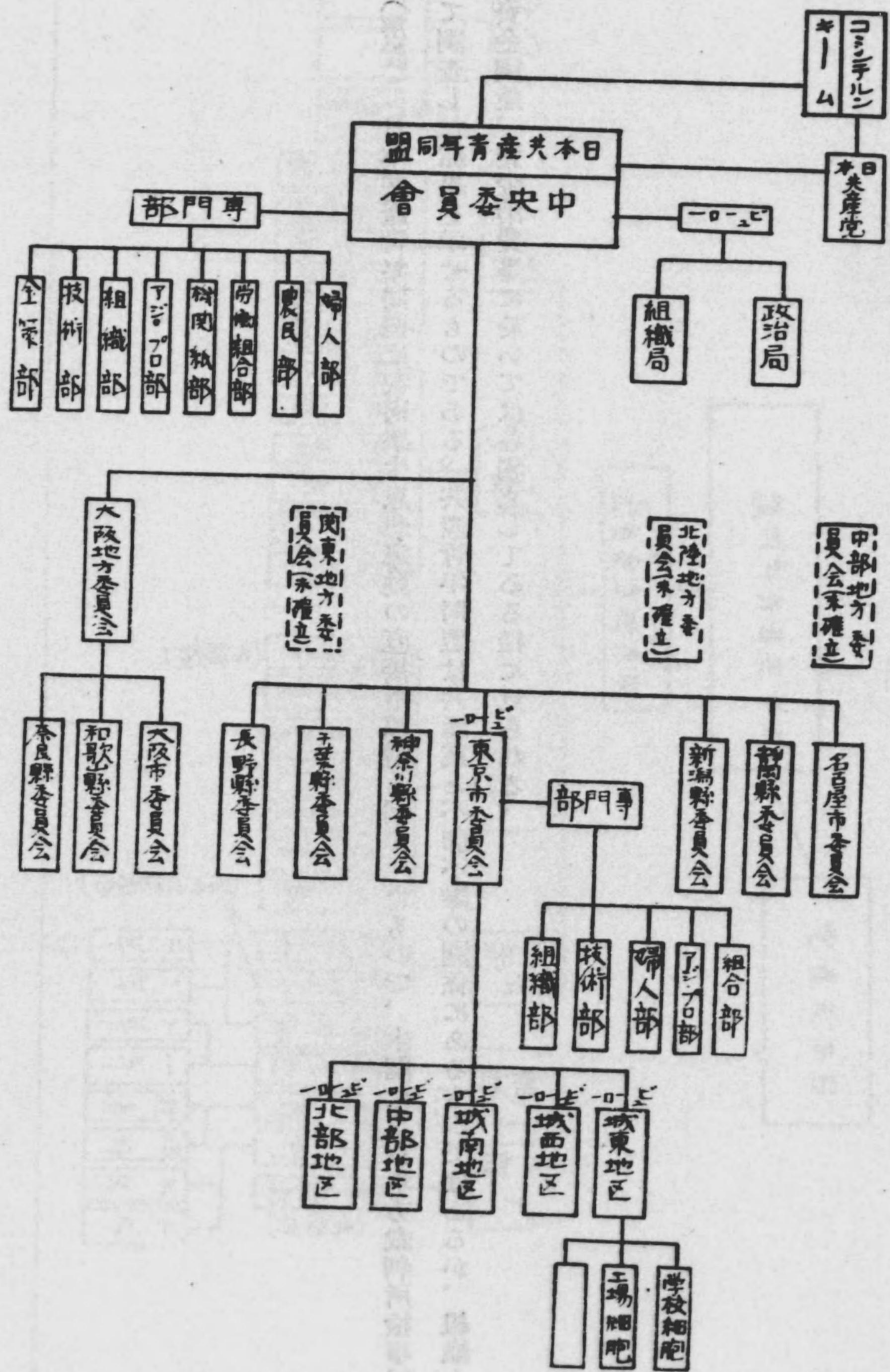




(解説) 日本共産黨は我國共產主義運動の主體であるが、學生運動に對しては從來日本共産青年同盟が直接指導に當つてゐた。然るに最近黨が直接學校内に入り込んだ事例が極めて稀ではあるが現れて來た。右圖中技術部は略稱をテク部といひ、主として黨運動の財政的方面を擔當してゐる。是は所謂四・一六事件以後黨とコミンテルンとの連絡が殆んど杜絶の状態となつた爲、運動資金を黨員、黨同情者(シンパサイザー)及學生層より醸出するの方針の下に特に設置した部門である。學校資金網といふのは便宜上の俗稱であるが、技術部の指令に基いて各學校に對し學生たる黨員をして主として友人、縁故關係を辿り月集金豫定額を定めて醸出せしめるものである。例へば昭和六年十一月慶應大學に於いて發覺した事件によれば、同大學に於いては資金網の手によつて月額三百五十圓を黨中央部に供給してゐた。

細胞には工場細胞、職場細胞、學校細胞、街頭細胞等がある。

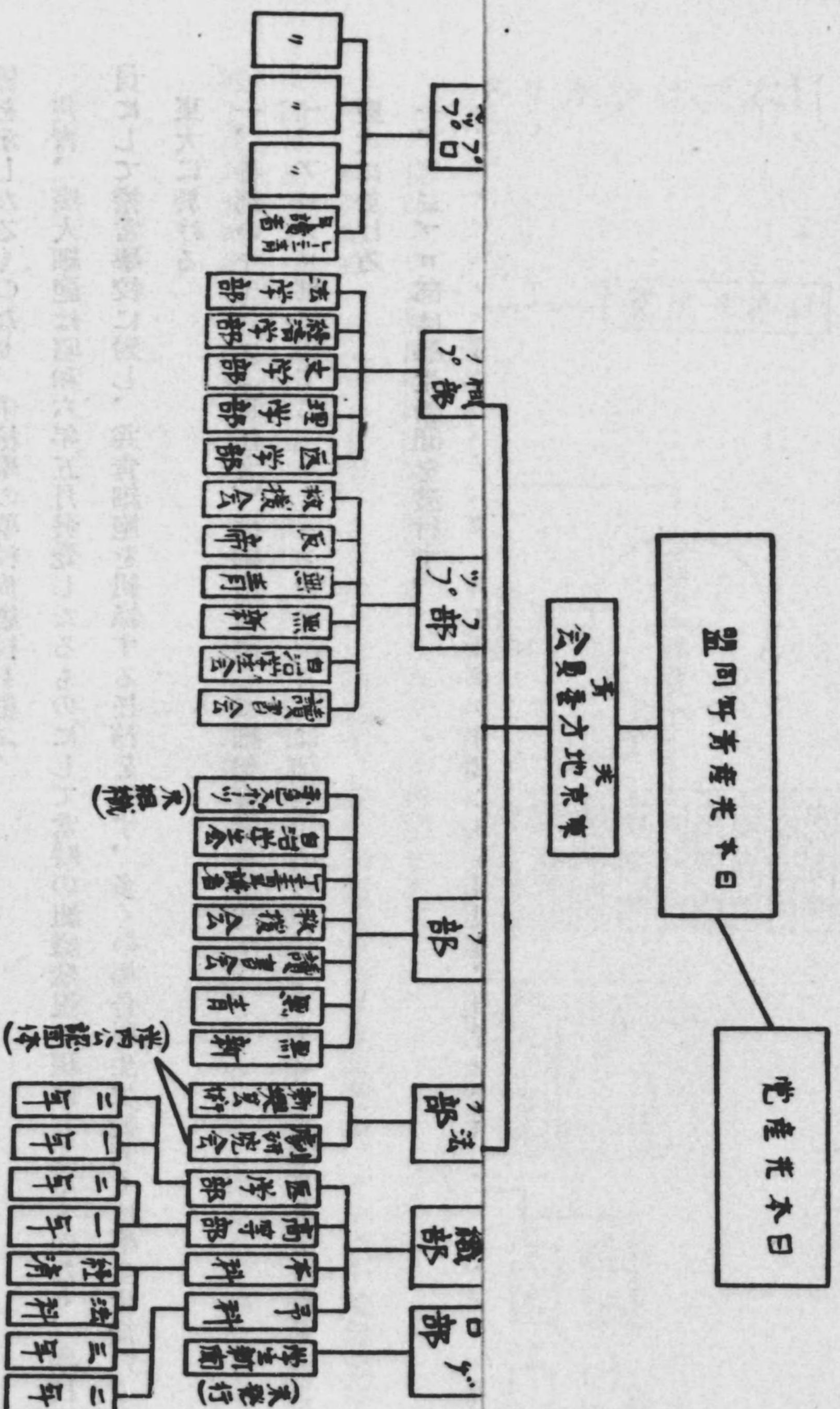
4 日本共産青年同盟組織圖 (昭和七年六月十日現在)





(解説) 日本共産青年同盟は我國學生思想運動の直接指導體と稱すべきもので、本圖は東京地方裁判所検事局に於いて調査した結果を示せるものである。共産青年同盟は共産黨と不即不離の關係にあるものではあるが、組織上並びに資金調達、資金消費等に於いては各獨立してゐる様に見られる。

(昭和二十六年六月) 東京府下於ける同盟・學校關係圖









(解説)

本圖は昭和六年十二月現在迄に順次發覺したる東京府下諸學校の共青細胞と日本共產青年同盟、日本共產黨との關係を示したるものなり、未檢學の學校尙數校を數ふ。

共青、慶大細胞は昭和六年五月發覺したるものにして當時の組織狀況を現はしたるものなり、學校オルグとは同盟員にして擔當學校に對し、共青細胞を組織する任務を有す、多くの場合學生生徒若くは學生生徒たりし者之に當る。

東大に於ける

一、各部のキャップ(責任者)は細胞員にして細胞會議を構成す。

一、アジプロ部に屬する「レーニン青年讀者」は細胞候補者としてプリント其他の任務に服す。

慶大に於ける

一、アジプロ部は學生新聞を發行す。

一、フラクシオン部はP・Y・R・S自學等の内部にある同盟員、讀者を統制してフラクシオン活動を行ふ。

一、合法フラク部は學校公認團體内にフラクシオン活動をなす。

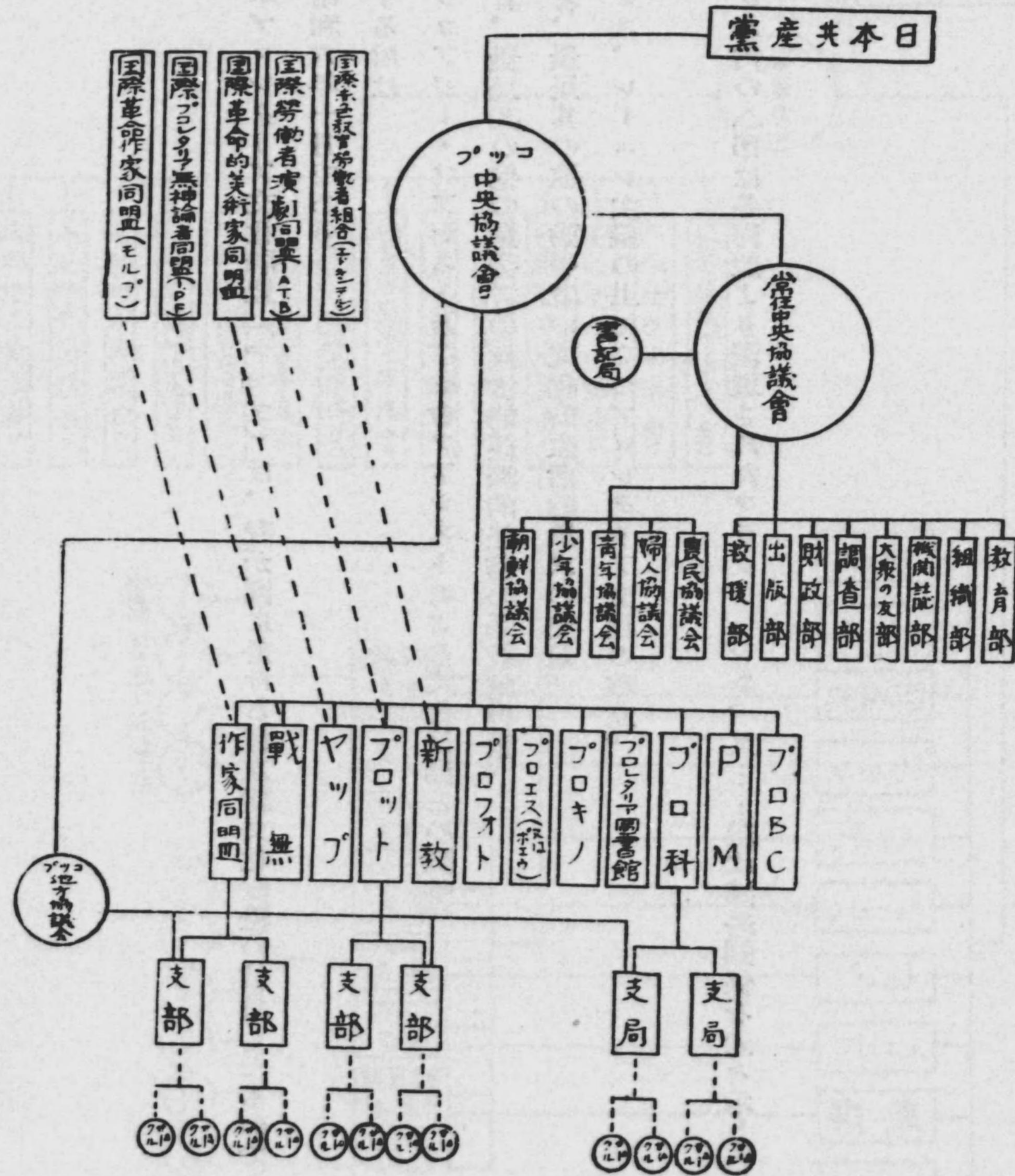
一、組織部は「レーニン青年」その他の文書配布、各科細胞及讀者の指導統制、メンバー獲得をなす。

因みに本圖に於ける地區組織は昭和六年十月頃より主として共青の擴大強化の目的を以て第一地區を城東に第二地區を城西南に第三地區を城北、中部の各地區に改組織し五地區となしたるものゝ如きも詳細は判明せず。



# 圖織組(ブッコ)盟聯化文アリタレロブ本日 6

(在現月九年七和昭)



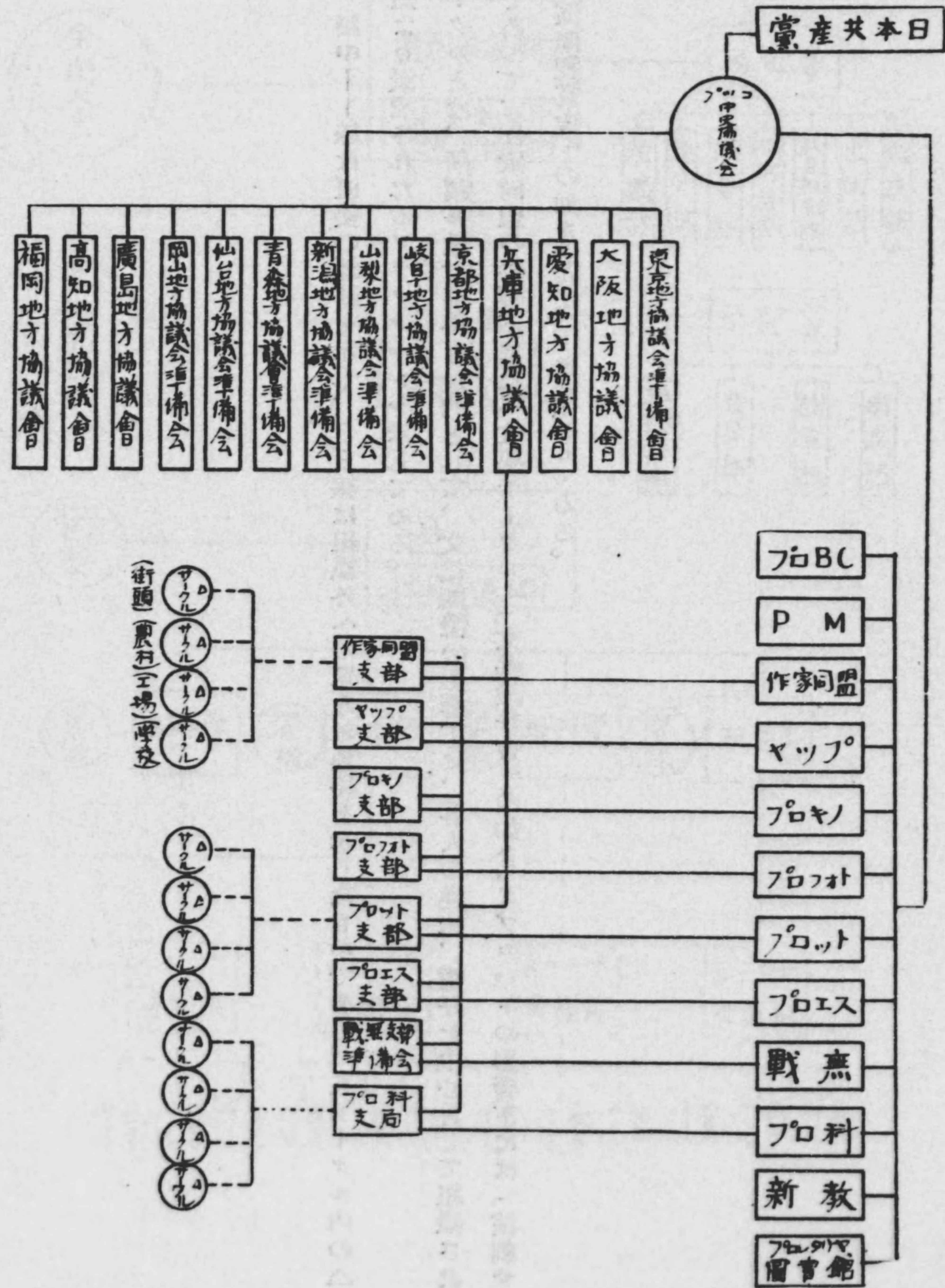
(解説)

日本共産党の組織



7 日本プロレタリア文化聯盟地方協議會組織情況

(昭和七年六月現) 圖



(解説) 日本プロレタリア文化聯盟(コップ)は、我が國に於ける極左諸文化團體の結集したものであつて、其の成立は昭和六年十月であり

其の目的とする所は

(一) プロレタリア・ファシスト及び社會ファシストによる文化反動との闘争。

(二) 労働者、農民其の他の勤勞者の政治的經濟的任務の系統的啓蒙。

(三) 勤勞者、農民其の他の勤勞者の文化的生活的欲求の充足。

(四) マルクス、レーニン主義の上に立つプロレタリア文化の確立。

尙圖中サークル内の△印は各同盟より派遣されたフラクションを、又……線は連絡關係を夫々示したものである。







(解説) プロレタリア文化聯盟加盟新興教育研究所は昭和七年一月新興教育同盟への組織方針を決定し、所謂サークル運動によつて教育に關心を有する一般大衆に働きかけんとするに至つた。爾來教育サークル活動を通じて支部準備會地區の組織を進め、昭和七年六月十日附大衆的な新聞として「教育新聞」を創刊した。その發表する所によれば既に東京、長野、富山、大阪、宮城、秋田、新潟の七地方に支部準備會を設け同盟員四二五人を獲得したとのことである。

又昭和七年八月二十五日新興教育同盟準備會結成大會を開催し次の如き新教の特殊的任務と組織方針を議した。

新教の特殊的任務と組織方針

- (一) 工場農村職場學校等に労働者農民勤勞者大衆の読み書き熟達のためのサークルを作ること。
- (二) 勞農兒童の自由的教育組織を作ること。
- (三) 無産父兄會を作ること。
- (四) 初等教育研究サークルを作ること。

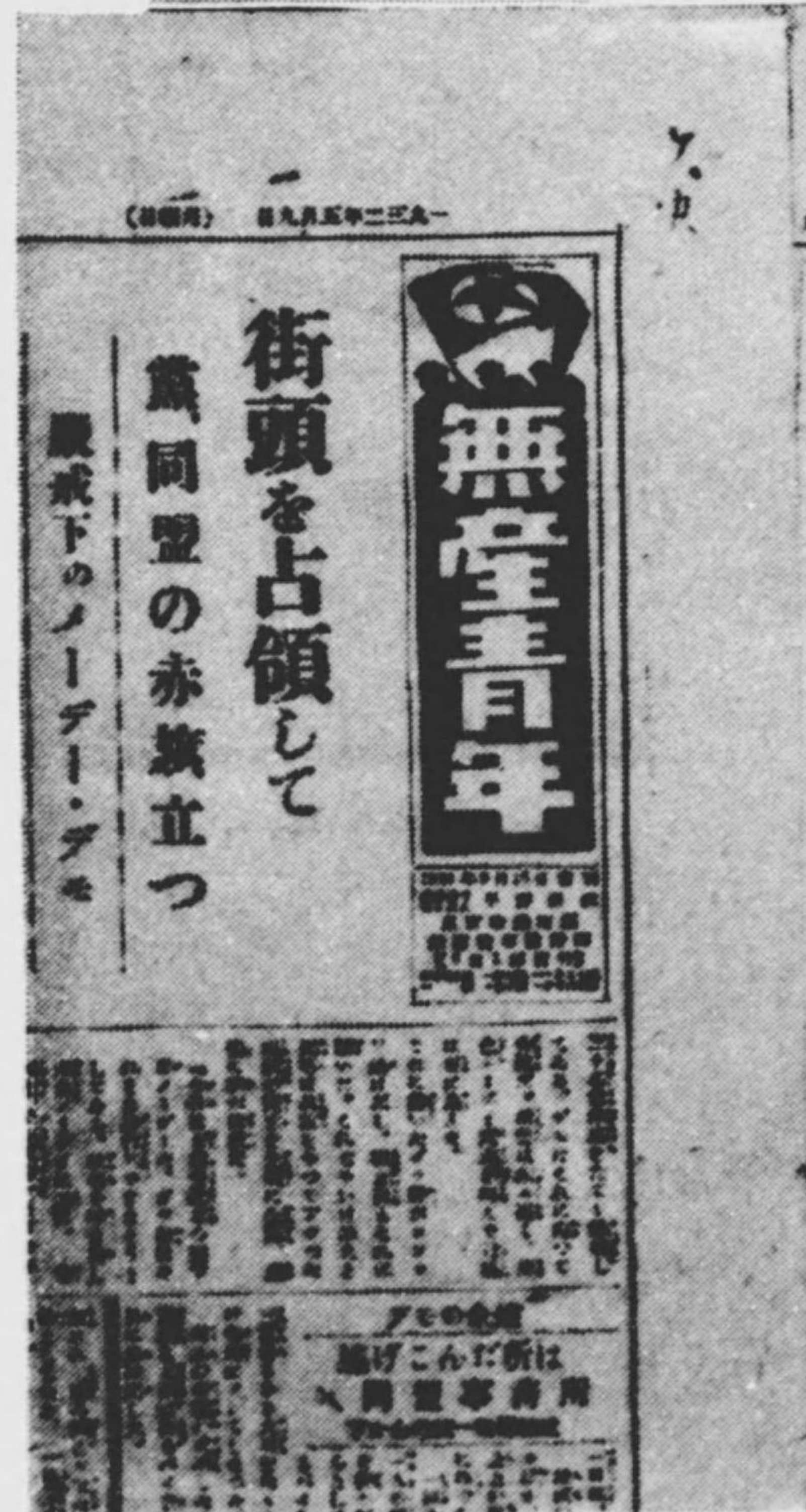
註 尙茲に職場とは教員の職場即ち小學校を指すものである。

### 第三 左傾運動並に思想關係各種宣傳印刷物の寫眞



(一) 紙關機るせ行發の體團廓外び及盟同・黨 一第

(照參「表覽一體團左極要主」文本)





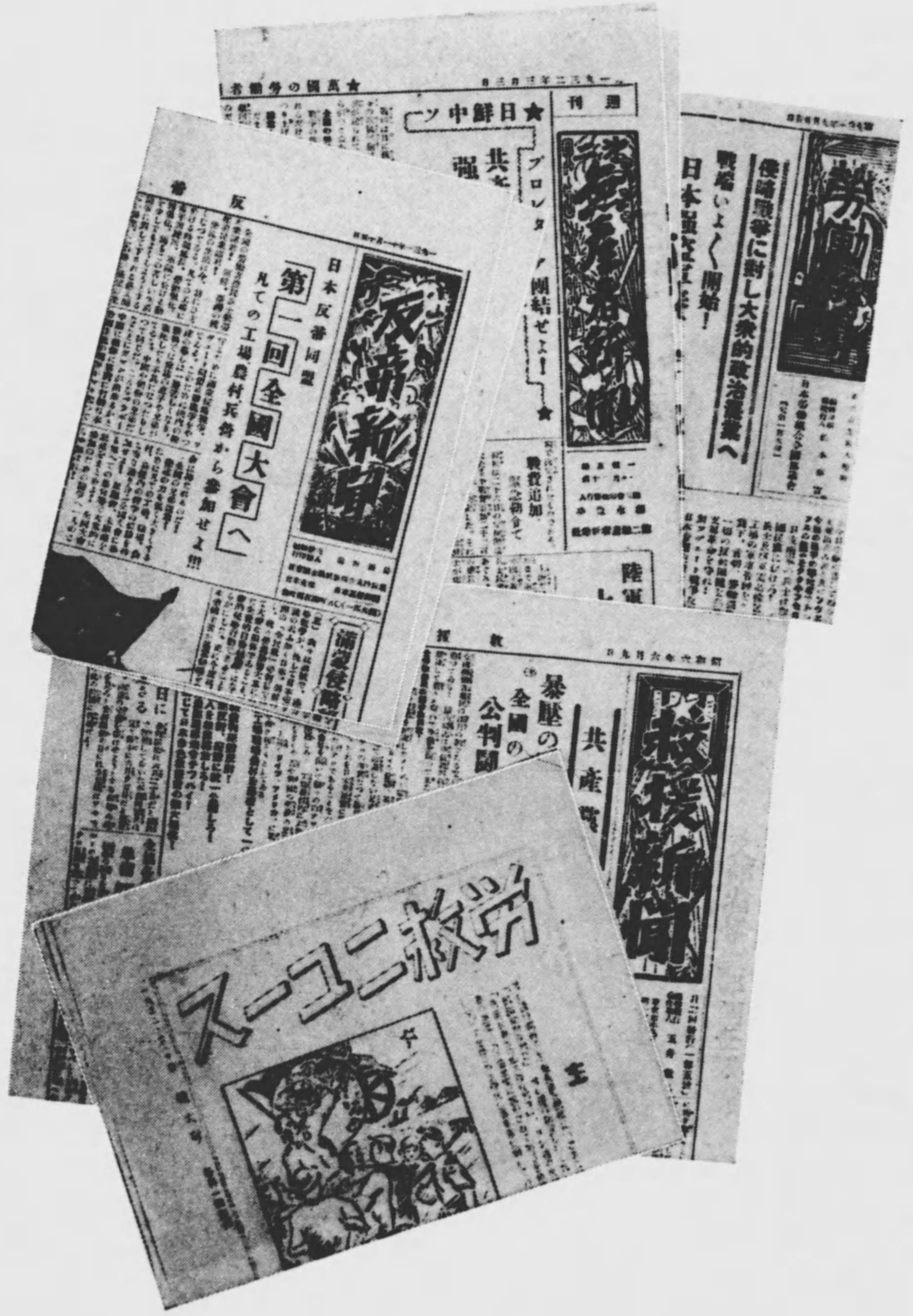
**檄!**

一九三二年 六月二十二日  
 国際共産党日本支部 日本共産党  
 東大細胞

（以下は縦書きの文章）

三レデー記念日を前にして  
 東大七千の学生諸君に訴へ  
 日本共産青年同盟 東大細胞

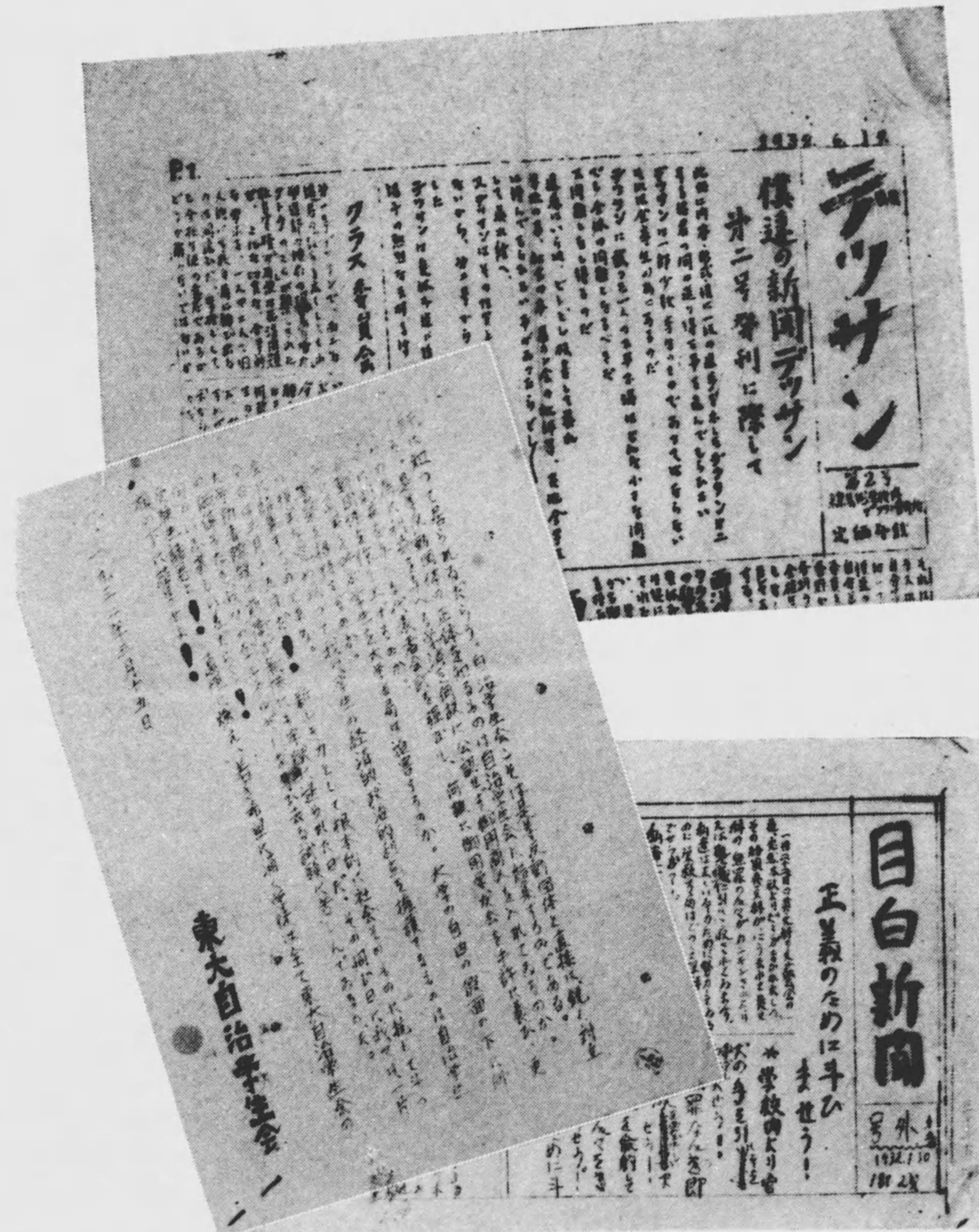
（以下は縦書きの文章）





第五自學及自學新聞

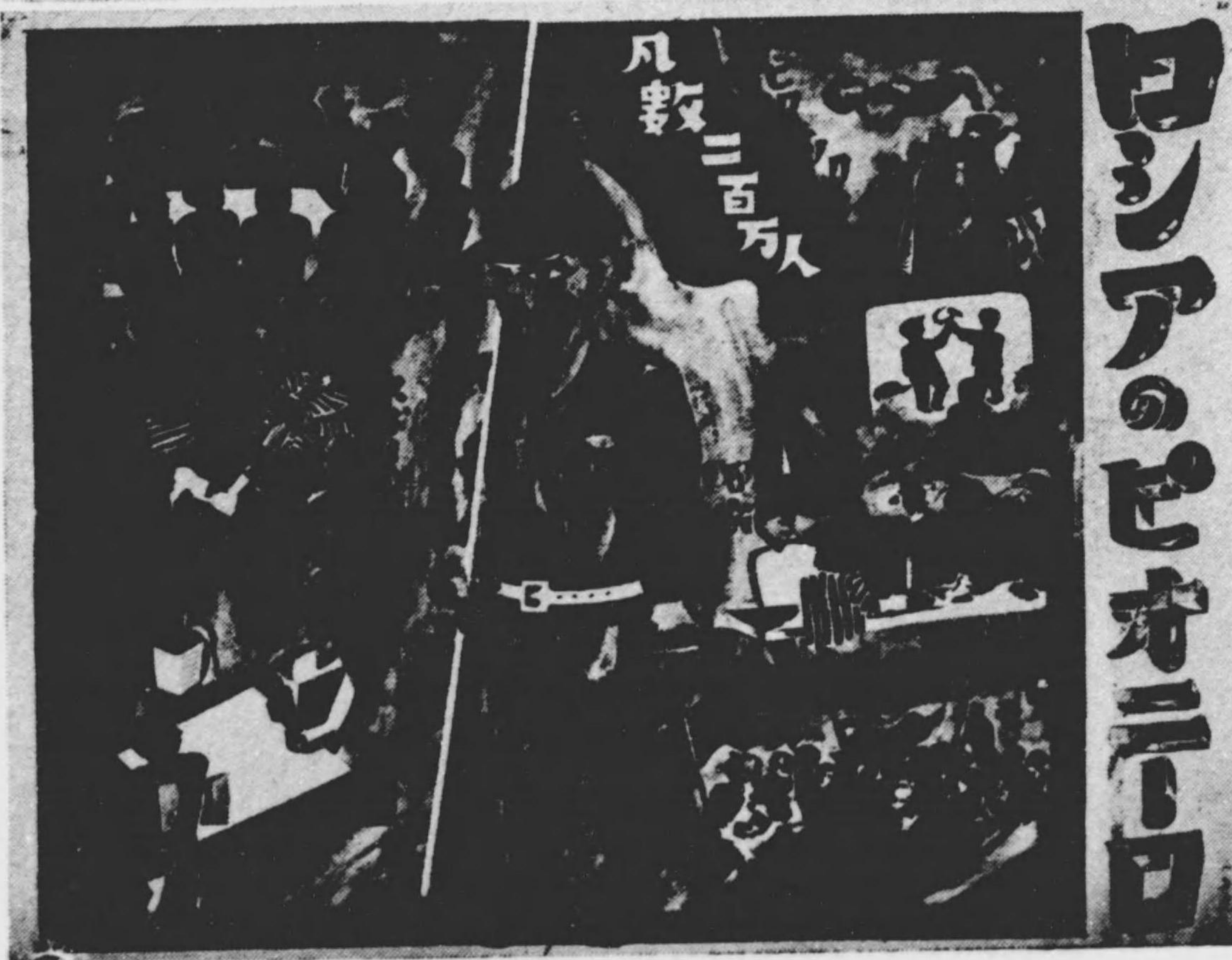
(校學術美京東は「ンサツア」)  
(學大子女本日は「聞新白目」)



第四讀書會及外廊團體學内班のラビ







## 第四 學生生徒の左傾道程に用ひらるゝ主要文獻一覽

本覽は主として左傾學生生徒の手記、告白及び學生生徒の檢舉に關し學生部へ報告せられたる資料に基きて作成したものである。

### 一、社會問題に對し一般的興味を興へる文獻

#### 1 人道主義的傾向を有するもの

ユーゴー、トルストキ、ロマン・ローラン、ドストイェフスキー、有島武郎、武者小路實篤等の作品

#### 2 虚無思想乃至急進的思想を有するもの

イブセン、チエーホフ、ツルゲネーフ、ステイルネル、ゴーゴリ、ゴルキイ(初期の作)、バルビュス、ルマルク、石川啄木等の作品

#### 3 社會主義的思想を有するもの

クロボトキン 「青年に訴ふ」  
細井和喜藏 「女工哀史」  
河上肇 「貧乏物語」

ゴルキイ 「母」  
森戸辰男 「思想の闘争」  
平野學 「近世社會思想と其の運動」

### 二、左翼理論の啓蒙のための文獻

#### 1 經濟に關するもの



山川 均 「資本主義のからくり」

マルクス 「労賃・價格及び利潤」

ブハーリン、ブレオ 「共産主義ABC」上

オブラチェンスキー 「経済學入門」

ミハレウスキー 「経済學入門」

マルクス 「經濟學批判」

ヒルファディング 「金融資本論」

レーニン 「戰爭論」

河上 肇 「資本論入門」

河上 肇 「マルキシズムの基礎理論」

政治に関するもの

マルクス 「共産黨宣言」

ブハーリン、ブレオ 「共産主義ABC」下

アラオロビョフ 「プロレタリア政治學」

平野義太郎 「法律に於ける階級闘争」

レーニン 「國家と革命」

歴史及び傳説に関するもの

エンゲルス 「社會主義の發展」(空想より科學へ)

マルクス 「賃労働と資本」

青年タコミ編 「無産者政治教程」第一部

河上 肇 「マルクス主義經濟學」

ローザ 「經濟學入門」

猪俣津南雄 「金融資本論」

レーニン 「帝國主義論」

ヴッルガ 「世界經濟年報」

カウツキー 「資本論解説」

プロレタリア科學研究所編 「第三期とは何ぞや」

青年タコミ編 「無産者政治教程」第二・三部

エレンデル 「無産者初歩教程」

産 勞 編 「無産者政治必携」

エンゲルス 「私有財産及國家の起源」

レーニン 「帝國主義論」

エンゲルス 「社會主義の發展」(空想より科學へ)

エンゲルス 「リヤザノフ・マルクス・エンゲルス傳」

ペーア 「社會主義通史」上・下

クルプスカヤ 「レーニンの思出」

シヤポアロフ 「マルクス主義への道」

カバクチエフ 「コミンテルンの成立と發展」

レーニン 「左翼小兒病」

野呂榮太郎 「日本資本主義發達史」

エンゲルス 「家族、私有財産及國家の起源」

唯物史觀に関するもの

デボーリン 「レーニンの戰國的唯物論」

エンゲルス 「フオイエルバッハ論」

三 木 清 「唯物史觀と現代の意識」

デイーツゲン 「辯證法的唯物論」

ブハーリン 「マルキシズム認識論」

カウツキー 「倫理と唯物史觀」

エンゲルス 「ドイチェ、イデオロギー」

エンゲルス 「自然辯證法」

佐野 學 「日本歴史」

ローザ 「ローザ・ルクゼンブルグの手紙」

ピアトニツキー 「革命の陣頭に立ちて」

レーニン 「パリ・コミユンの經驗」

レーニン 「一九一七年」

菊川 忠雄 「學生社會運動史」

タールハイマー 「辯證法的唯物論入門」

三 木 清 「社會科學の豫備概念」

エンゲルス 「社會主義の發展」(空想より科學へ)

デイーツゲン 「哲學の實果」

デボーリン 「辯證法的唯物論の哲學」

ブレハーノフ 「マルクス主義の根本問題」

カウツキー 「キリスト教の起源」

エンゲルス 「反デューリング論」

レーニン 「宗教について」



レーニン 「國家と革命」  
マルクス 「哲學の貧困」

レーニン 「唯物論と經驗批判論」

5 文學、藝術に關するもの

ブレハーノフ 「藝術論」  
ルナチャルスキー 「實證美學の基礎」  
フリーチエ 「藝術社會學」  
山田清三郎 「日本プロレタリア文藝運動史」  
中野重治 「藝術に關する走り書」  
フージェフ 「壊滅」  
徳永直 「太陽のない街」  
小林多喜二 「一九二八、三、一五」  
小林多喜二 「不在地主」

ブレハーノフ 「藝術と社會生活」  
コーガン 「プロレタリア文學論」  
メーリンク 「世界文學と無産階級」  
藏原惟人 「藝術と無産階級」  
ゴルキイ 「母」  
トレチャコフ 「吠えろ支那」  
村山知義 「暴力團記」  
小林多喜二 「蟹工船」

6 戰略藝術に關するもの

青年コミンタン編 「無産者政治教程」第四部  
インター編輯部 「ストライキ戰略藝術」  
レーニン 「組織問題」  
レーニン 「労働組合論」

コミンテルン 「工場を基礎として」  
小泉保太郎 「左翼労働組合運動」  
レーニン 「アジテーションとプロバカンダ」  
レーニン 「何を爲すべきか？」

7 特殊理論に關するもの

村山藤四郎 「我國に於ける農民問題」  
マルチノフ 「レーニンと農村問題」  
レーニン 「民族問題」  
レーニン 「貧農に與ふ」

プロレタリア科學編 「支那問題講話」  
エンゲルス 「獨逸農民戰爭」  
レーニン 「青年同盟」

三、初歩讀書會用主要テキスト

堺利彦 「社會主義學說大要」  
エンゲルス 「社會主義の發展」  
（空想より科學へ）  
ブハーリン、ブレ  
オブラヂェンスキ  
マルタス 「賃労働と資本」  
デボーリン 「レーニンの戰闘的唯物論」  
三木清 「唯物史觀と現代の意識」  
カウツキー 「資本論解説」

堺利彦 「資本主義のからくり」  
ブハーリン 「唯物史觀」  
青年コミンタン編 「無産者政治教程」第一・二・三部  
ミハレフスキー 「經濟學入門」  
タールハイマー 「辯證法的唯物論入門」  
エンゲルス 「フォイエルバッハ論」

四、新聞、雜誌

1 雜誌

「批判」「文戰」「勞農」「レーニン研究」「女人藝術」「サウエートの友」「建築のソヴェット同盟」「カマラー  
ド」「インターナショナル」「産業労働調査時報」「大衆の友」「働く婦人」「戰闘的無神論者」「新興教育」「ブ



ロキノ」「プロレタリア美術」「プロット」「プロレタリア文學」「プロレタリア科學」「プロレタリア文化」「マルクス主義の旗の下に」「ウリトシム」「われらの科學」

2 新聞

「音樂新聞」「映畫クラブ」「美術新聞」「演劇新聞」「文學新聞」「教育新聞」「われらの世界」

五、全集・講座

新潮社版「社會問題講座」改造社版「經濟學全集」同「マルクス・エンゲルス全集」「レーニン全集」「マルクス主義講座」「佐野學全集」「プロレタリア藝術教程」「綜合プロレタリア藝術講座」「プロレタリア・エスペラント講座」

六、雜

「プロレタリア辭典」「勞農辭典」「日本勞働年鑑」「勞農日記」「消費組合必携」「プロレタリアスポーツ必携」

第五 左傾運動並に思想關係主要用語略解表

五十音順 昭和七年九月調

名 稱	原 名	略 解
アギト・プロップ隊	agit. prop. Truppe (獨)	煽動宣傳隊の意。
アジテーション又はアジ	agitation (英)	煽 動。
アジ	agitate point (英)	秘密指導部。
アジ	agitation and propaganda (英)の略。	煽動の爲に使用するピラ。
アジ	appeal (英)	煽動・宣傳。
アド又はアドレス	address (英)	「煽動する」の意。
アール・エス・(R.S.)	reading society (英)の略	言論、文書等に依り大衆に訴へる左翼の
アール・エス・エス・アール	Russian Socialist Soviet Republic (英)の略	戦術の一種。
(R.S.S.R.)	Das Internationale Arbeiter Theater Bund	宛名、通信所、左翼運動に於いては受取
イー・アー・テー・ユー	(獨)の略	人と宛名とを區別し居れり。
(I.A.T.B.)	Die Internationale Arbeiter Hilfe(獨)の略	讀書會。
イー・アー・ハー (I.A.H.)		ロシア社會主義ソヴェット共和國。
		國際労働者演劇同盟。(本部ベルリン)最
		近はテアインテルン (Theatern)とも呼
		稱す。
		國際労働者救援會。(本部ベルリン)



イデオロギー	Idelogie (獨)
イニシアチーブ	initiative (英)
イー・ペー・エフ (I.P.F.)	Der Internationale proletarische Freidenker (獨)の略
イフア (I.F.A.)	instruction (英)の略。
インストア	Internationale Press Correspondence (英)の略。
ウルトラ	Ultra-Linken (獨)の略。
エイ・ジー・ (A.G.)	agent group (英)の略。
イー・カー・ (E.K.)	Exekutive Komitee (獨)の略。
エーゼント・グループ	agent group (英)
エフ・エス・ユー・ (F.S.U.)	Students Society of Social Science (英)の略。
エス・エス・ (S.S.)	Souz Sovetskikh Sodalisticheskikh Republik Federation of Students Society of Social Science (英)の略。
エス・エス・エス・ホル (C.C.C.P.)	Student-Liberty. (英)の略。
エス・エフ・ (S.F.)	La Internacio de Eduklaboristoj (エス・エフ・)の略。
エドキンテルン (Edkintern)	

或る社會集團の特有の物の見方、考へ方を言ふ。例「プロレタリア・イデオロギー」元來發議權の意なるも通常或る運動を率先して提唱するを言ふ。

國際プロレタリア自由思想家同盟(本部ベルリン)日本にては國際無神論者同盟と稱す。

労働者文化協議會。(ドイツ)

指 令。

第三インターナショナルの機關紙たる國際情報雜誌の名稱。

極 左。

細胞下にある共産青年同盟の大衆的補助組織(共青候補者團體)。

執行委員會。

A.G.の項参照。

ソヴェットの友の會。

學生社會科學研究會。

ソヴェット社會主義共和國聯邦。

全日本學生社會科學聯合會。(解消せり)。

學生自由擁護同盟。(解消せり)。

國際教育労働者組合。(本部・パリ)

エル・カー・ペー (R.K.P.)	Die Russische Kommunistische Partei (獨)の略。
エス・シー・エム (S.C.M.)	Social Christian Movement (英)の略。
オ ー ル グ (Org)	organizer (英)の略。
解 派 消	
解 派 消	
學 聯 消	
ガ サ	
カ ッ プ (Cap)	Die Kommunistische Partei (獨)の略。
カ ー ・ ペ ー (K.P.)	camouflage (佛)
壁 新 聞	campania (拉)
カ ム フ ラ ー ジ	campania (拉)
カ ン パ ー ニ ャ	campania (拉)の略。
キ イ ム (Kim)	Kommunisticheski International Molodeji (露)の略。
キ ャ ッ プ (Cap)	captain (英)の略。

ロシア共産黨。

日本 S.C.M. 研究會。

本部より派遣せられ又は任命せられて或る團體又は個人を左傾運動に誘導組織すべき任務を帯ぶる者。

一九三〇年労働黨内部に起つた解黨運動以來使用さる。一團體が新しき運動乃至組織の結成を目標として解體するの意。

第二次日本共産黨試中被告中、黨の誤謬を認めて、其の解體を主張する一派。

學生消費組合。

全日本學生社會科學聯合會。(解消せり)。

一齊檢舉又は家宅搜索の意。

朝鮮プロレタリア藝術聯盟。

共産黨。

職場、集合所等の壁を利用し、種々の時事ニュース、寫眞、漫畫等を貼付した一種のアジ・プロ新聞。

假面をかむり瞞着すること。

大衆闘争。

同 上。

國際共産青年同盟。

キャプテン。責任者。























渡  
政

ワイ・シー・アイ (Y.C.I.)

Young Communist International (英) の略。

國際青年共產同盟。  
昭和三年十月六日臺灣に於いて自殺せる  
日本共產黨幹部渡邊政之輔。



